

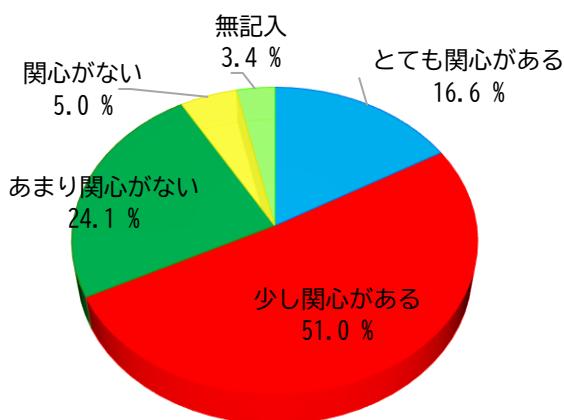
第3章 集計結果

※構成比は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

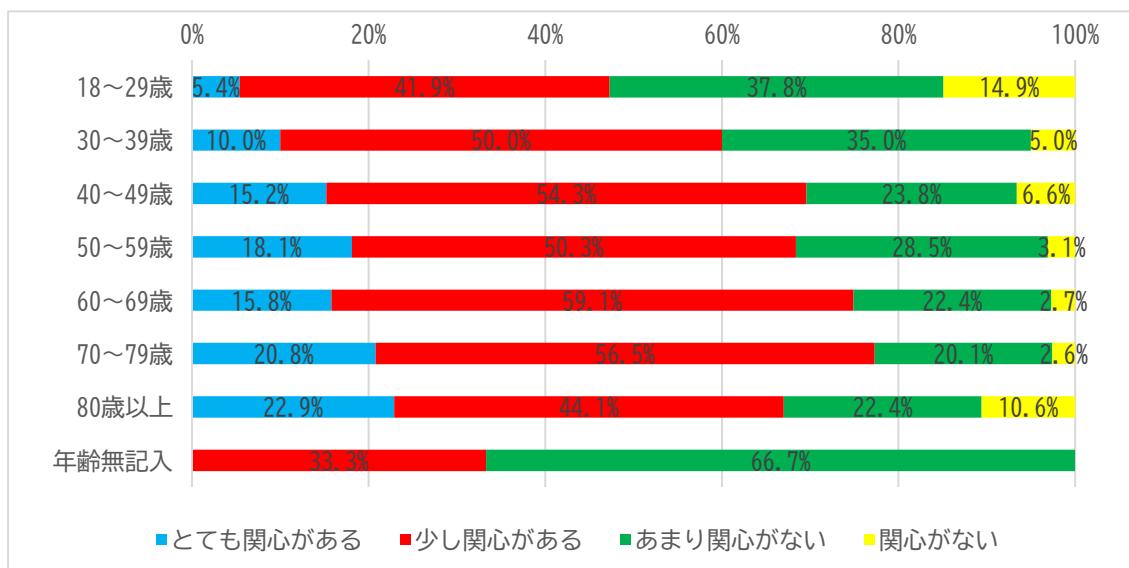
1 市政への関心について

問1 市が行うことへの関心について1つ選んでください。

No.	項目	回答数	構成比
1	とても関心がある	217名	16.6%
2	少し関心がある	666名	51.0%
3	あまり関心がない	315名	24.1%
4	関心がない	65名	5.0%
	無記入	44名	3.4%

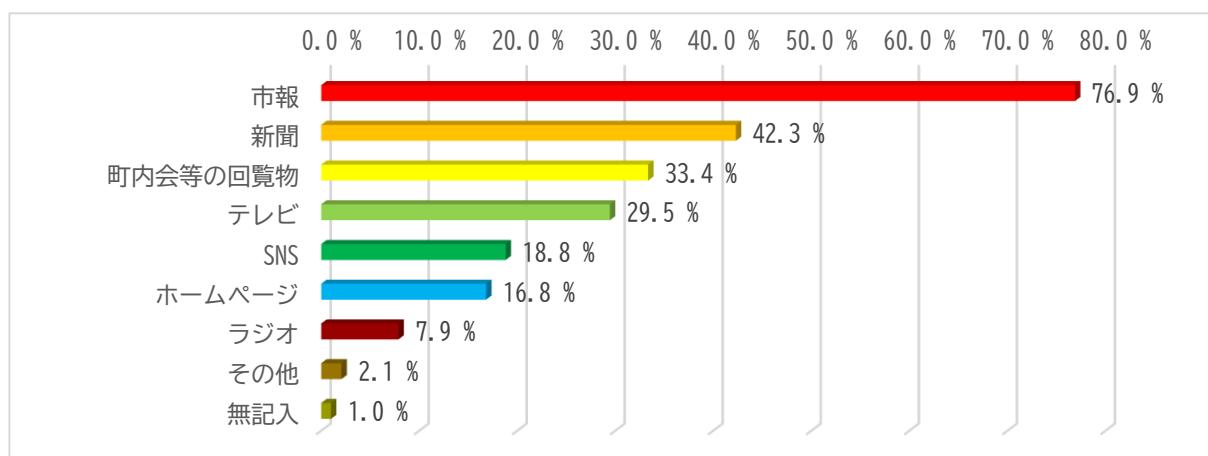


年代別回答割合



問2 市政に関する情報の入手先は何ですか。当てはまるものをすべて選んでください。

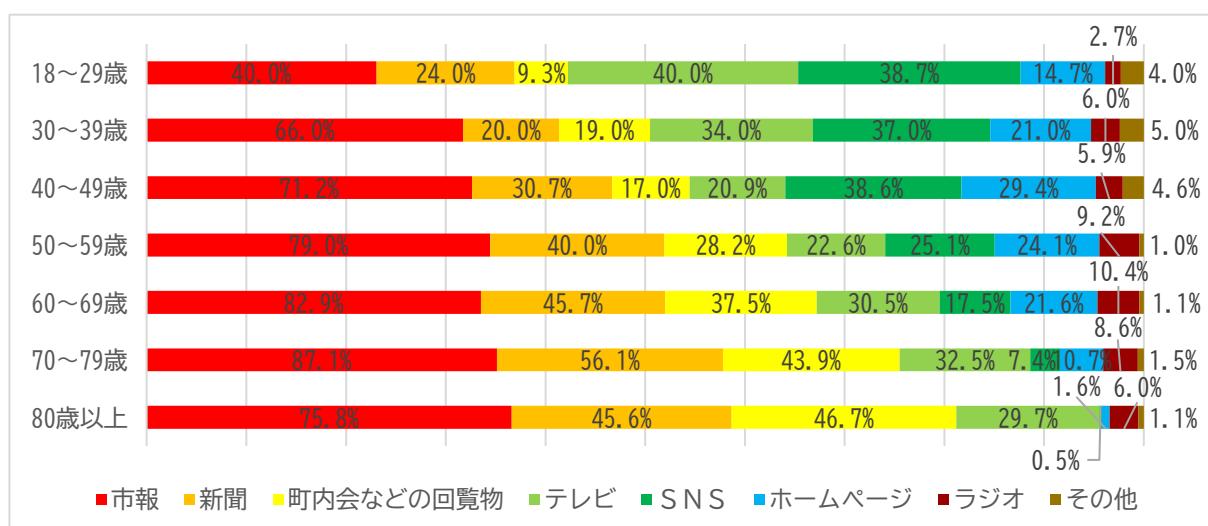
No.	項目	回答数	構成比
1	市報	1,005名	76.9%
2	新聞	553名	42.3%
3	町内会等の回覧物	436名	33.4%
4	テレビ	385名	29.5%
5	SNS	246名	18.8%
6	ホームページ	220名	16.8%
7	ラジオ	103名	7.9%
8	その他	27名	2.1%
	無記入	13名	1.0%



【その他】

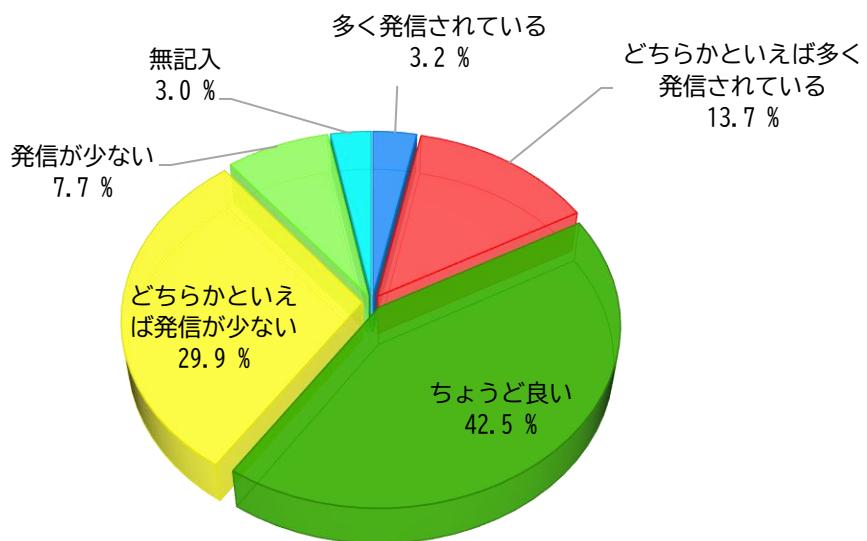
●LINE ●家族 ●知人 など

年代別回答割合

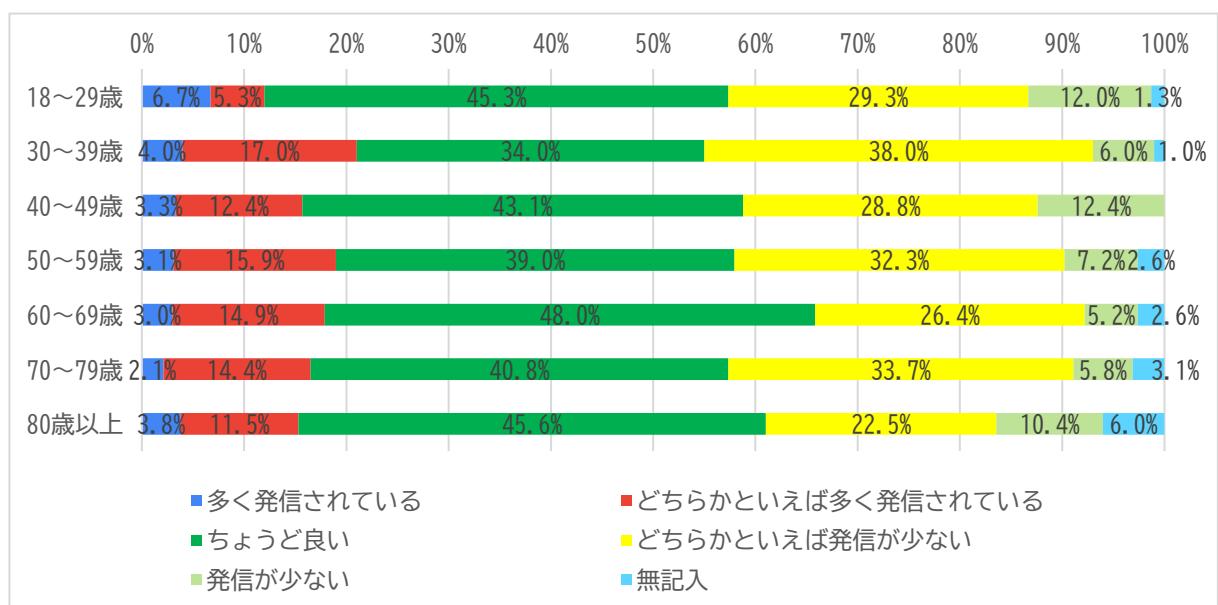


問3 市から多くの市政情報が発信されていると感じますか。1つ選んでください。

No.	項目	回答数	構成比
1	多く発信されている	42名	3.2%
2	どちらかといえば多く発信されている	179名	13.7%
3	ちょうど良い	556名	42.5%
4	どちらかといえば発信が少ない	391名	29.9%
5	発信が少ない	100名	7.7%
	無記入	39名	3.0%

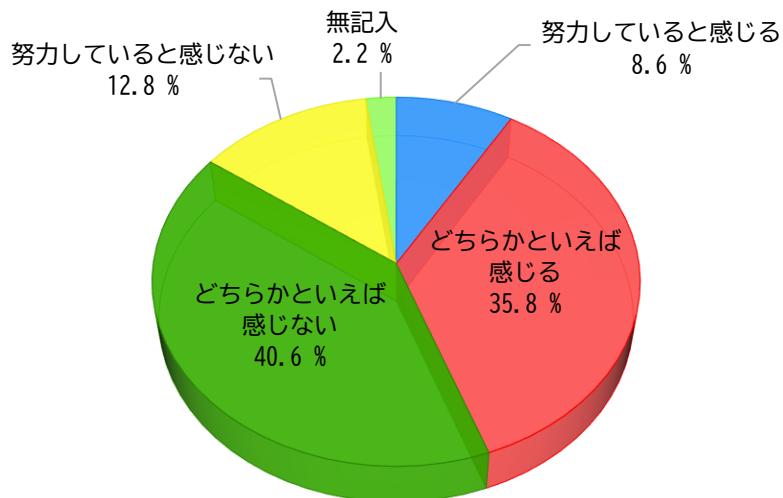


年代別回答割合



問4 市は市民の意見を把握しようと努力していると感じますか。1つ選んでください。

No.	項目	回答数	構成比
1	努力していると感じる	112名	8.6%
2	どちらかといえば感じる	468名	35.8%
3	どちらかといえば感じない	531名	40.6%
4	努力していると感じない	167名	12.8%
	無記入	29名	2.2%



【集計結果の分析】

問1 「とても関心がある」「少し関心がある」が67.6%を占め、前年度の調査と比べて1.7%減少。全世代で「少し関心がある」が最も高いが、79歳以下では「あまり関心がない」「関心がない」の割合は年齢が下がるにつれ高い傾向にある。

問2 「市報」が最も高く76.9%となっている。年齢別の高い傾向として、18~29歳では「テレビ」「市報」「SNS」、30~49歳では「市報」「SNS」「テレビ」、50~79歳では「市報」「新聞」「町内会等の回覧物」、80歳以上では「市報」「町内会等の回覧物」「新聞」の順で高い傾向にある。

問3 59.4%が「多く発信されている」「どちらかといえば多く発信されている」「ちょうど良い」と回答。49歳以下では、4割超が「どちらかといえば発信が少ない」「発信が少ない」と回答し、特に30~39歳の割合が高くなっている。

問4 「努力していると感じる」「どちらかといえば感じる」が44.4%、「どちらかといえば感じない」「努力していると感じない」が53.4%を占めている。

以上のことから、若年層は市政への関心が低く、世代ごとに情報の入手方法が異なり、情報発信はおおむね適量だが、広聴の取り組みには不足感があるという課題が分かった。

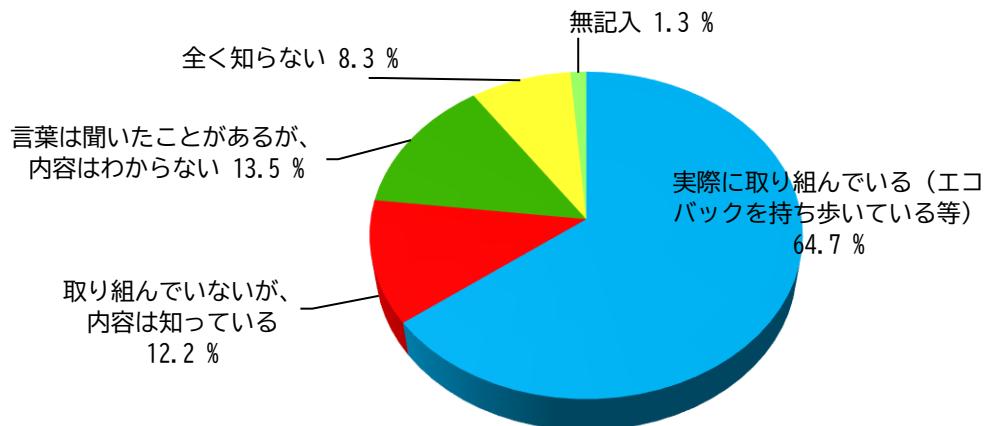
課題に対し、若年層への情報発信としてSNSの効果的な活用や、全世代向けに市報をより見やすくするなどの改善に取り組んでおり、今後も市民が必要とする情報を積極的に発信していく。

また、市政提案、市民意識調査、まちづくり懇談会、動く市長室等の広聴事業を継続的に展開し、多様な市民ニーズの施策への反映を促進することで、市民と一体となったまちづくりを進めていく。

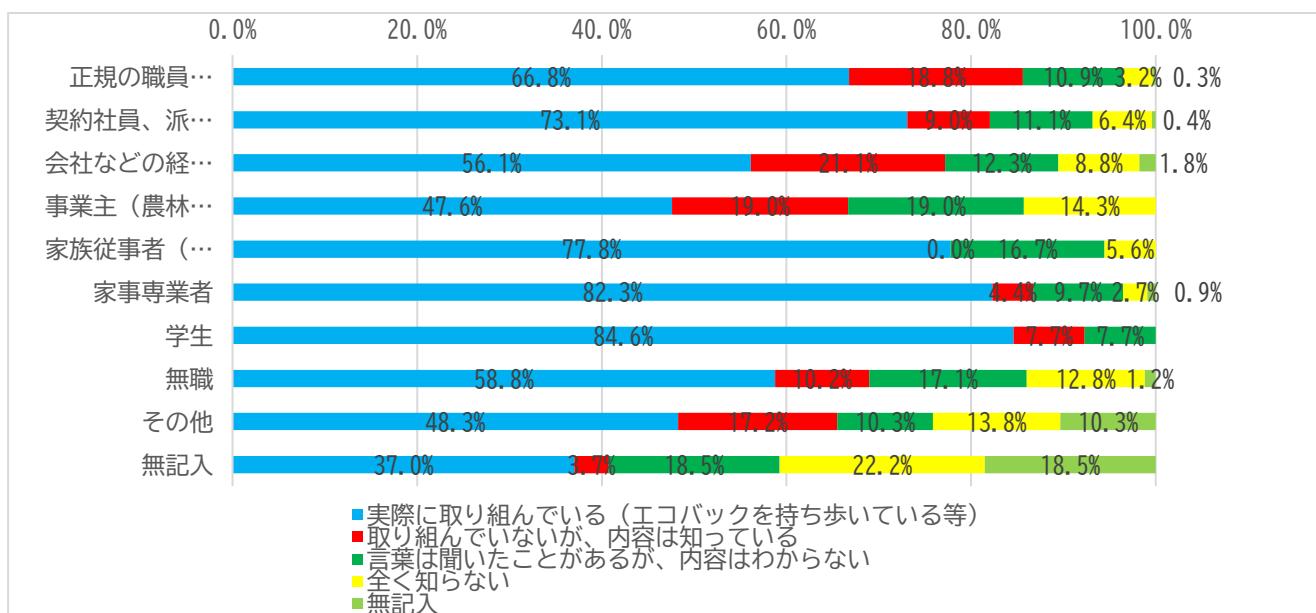
2 SDGs（持続可能な開発目標）について

問5 令和2年7月に国から「SDGs未来都市」に選定され、SDGsの達成に向けた取組や普及啓発を進めています。「SDGs」という言葉を知っていますか。1つ選んでください。

No.	項目	回答数	構成比
1	実際に取り組んでいる（エコバッグを持ち歩いている等）	846名	64.7%
2	取り組んでいないが、内容は知っている	159名	12.2%
3	言葉は聞いたことがあるが、内容はわからない	177名	13.5%
4	全く知らない	108名	8.3%
	無記入	17名	1.3%

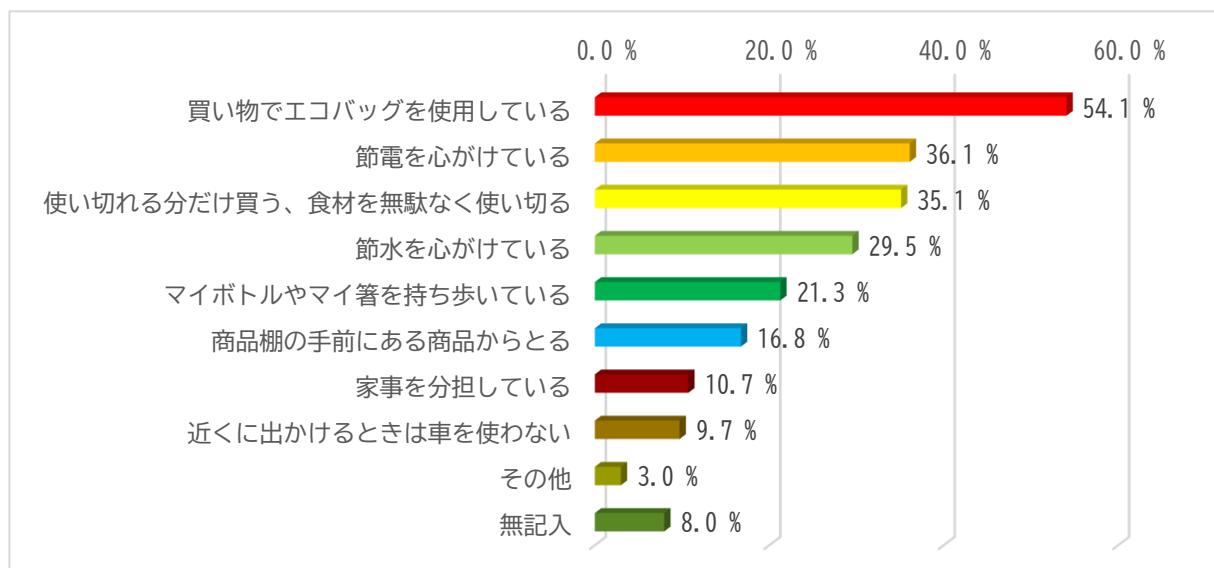


職業別回答割合



問6 問5で「1. 実際に取り組んでいる」と回答した方にお聞きします。実際に取り組んでいることは何ですか。当てはまるものをすべて選んでください。

No.	項目	回答数	構成比
1	買い物でエコバッグを使用している	707名	54.1%
2	節電を心がけている	472名	36.1%
3	使い切れる分だけ買う、食材を無駄なく使い切る	459名	35.1%
4	節水を心がけている	386名	29.5%
5	マイボトルやマイ箸を持ち歩いている	278名	21.3%
6	商品棚の手前にある商品からとる	219名	16.8%
7	家事を分担している	140名	10.7%
8	近くに出かけるときは車を使わない	127名	9.7%
9	その他	39名	3.0%
	無記入	104名	8.0%



【その他】

- 再利用出来るのは再利用する。リサイクル出来るのはリサイクルへ
- 買い物をする時、梱包してある物はあまり買わない（後でゴミになるため）
- 公共交通機関を使う。外に用事などの時は歩いていく

【集計結果の分析】

問5 「実際に取り組んでいる」「取り組んでいないが内容は知っている」「言葉は聞いたことがあるが、内容は分からない」が90.4%を占め、言葉を知っている割合は前年度の81.7%から8.7%上昇した。特に「実際に取り組んでいる」が前年度の40.4%から64.7%へ大幅に上昇し、実際に取り組むことの重要性がより強く認識されるようになったと思われる。

職業別では、家事専業者と学生が実際に取り組んでいる割合は80%を超え、一方で会社経営者・役員および事業主の取り組んでいる割合は50%前後と低い結果となった。

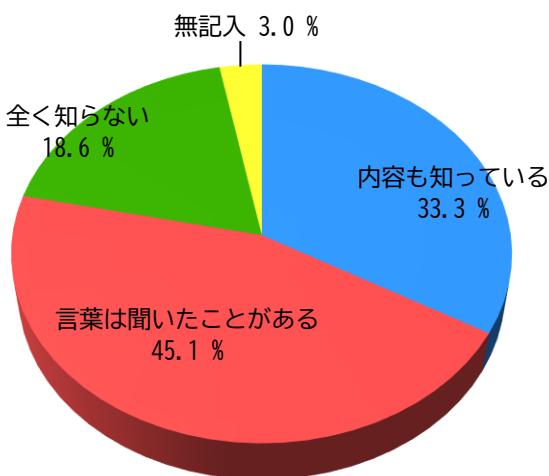
問6 「買い物でエコバッグを使用している」が54.1%で最多となった。次いで「節電を心がけている」（36.1%）、「使い切れる分だけ買う」（35.1%）と多く、一方で「近くに出かけるときは車を使わない」（9.7%）、「家事を分担している」（10.7%）が低いという結果となった。

以上のことから、SDGs達成に資する取り組みを行っている割合が低い経営層の意識を高めるため、SDGsシンポジウム及びSDGsパートナーなど企業の取り組みを推進する施策を充実させていく。また、取り組んでいる割合が低かった項目で取り組みが進まないことによる影響について、引き続き丁寧な周知に努める。

3 男女共同参画社会について

問7 「男女共同参画社会」という言葉を知っていますか。1つ選んでください。

No.	項目	回答数	構成比
1	内容も知っている	435名	33.3%
2	言葉は聞いたことがある	590名	45.1%
3	全く知らない	243名	18.6%
	無記入	39名	3.0%



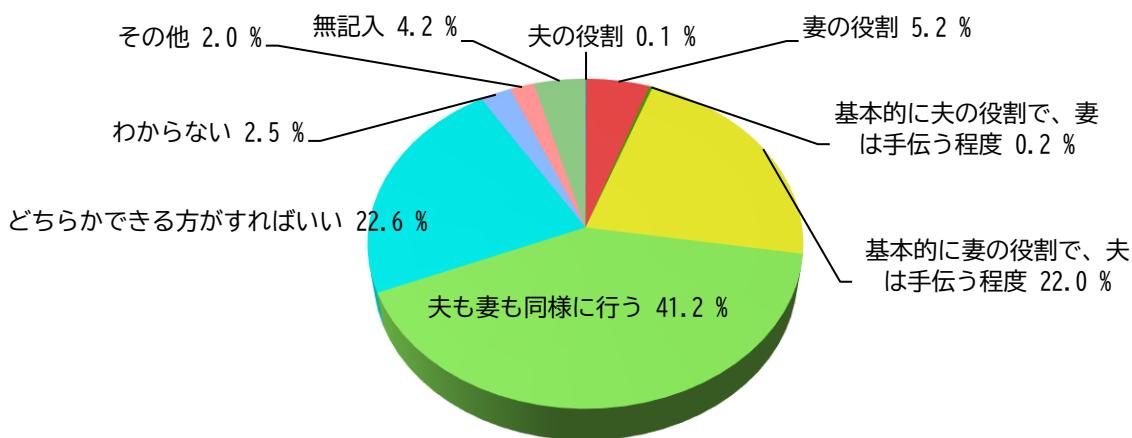
【集計結果の分析】

「言葉は聞いたことがある」が 45.1%と最も多い、「内容も知っている」と合わせた認知度は 78.4%となった。

しかし、「全く知らない」が 18.6%となっていることから、ホームページ、SNS を活用した情報提供や、男女共同参画関連セミナー、イベント等での広報・意識啓発を行い、認知度の向上を図る必要がある。

問8 家庭での育児や家事は、誰の役割だと思いますか。1つ選んでください。

No.	項目	回答数	構成比
1	夫の役割	1名	0.1%
2	妻の役割	68名	5.2%
3	基本的には夫の役割で、妻は手伝う程度	3名	0.2%
4	基本的には妻の役割で、夫は手伝う程度	288名	22.0%
5	夫も妻も同様に行う	538名	41.2%
6	どちらかできる方がすればいい	295名	22.6%
7	わからない	33名	2.5%
8	その他	26名	2.0%
	無記入	55名	4.2%



【その他】

- 夫婦の役割では無く、祖父母等含めて皆の役割。出来る所を協力し合う。
- 労働時間や収入に合わせてバランス良く分担
- 子供
- 分担している
- 平等であるべきだと思う。実際のところは妻の方
- 同居している全員
- 家族と地域の役割
- 同様に行い、時間のある方が行い、出来るほうがやればいい。

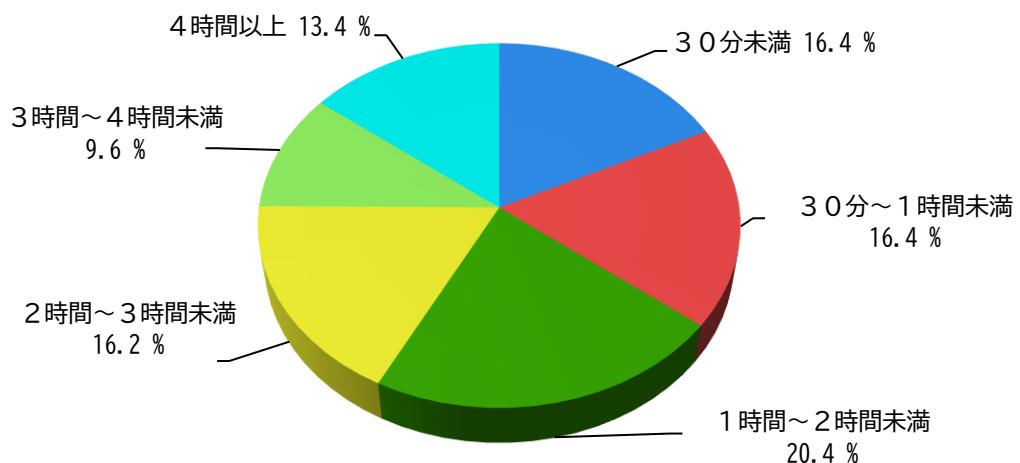
【集計結果の分析】

「夫も妻も同様に行う」が 41.2%、「どちらか、できる方がすればいい」が 22.6% と、性別に関係なく家事を行うと考える方が 63.8% となっている。一方で「妻の役割」「基本的には妻の役割であり、夫はそれを手伝う程度」が合計で 27.2% となっていることから、意識啓発セミナーの開催など、男女が共にやりがいや生きがいを持って生活ができるよう、男性の育児や家事に対する参画促進を図る必要がある。

問9 1日の家事（介護・看護・育児を含む。）時間はどれくらいですか。

1つ選んでください。

No.	項目	回答数	構成比
1	30分未満	215名	16.4%
2	30分～1時間未満	215名	16.4%
3	1時間～2時間未満	267名	20.4%
4	2時間～3時間未満	212名	16.2%
5	3時間～4時間未満	126名	9.6%
6	4時間以上	175名	13.4%
	無記入	97名	7.4%



【集計結果の分析】

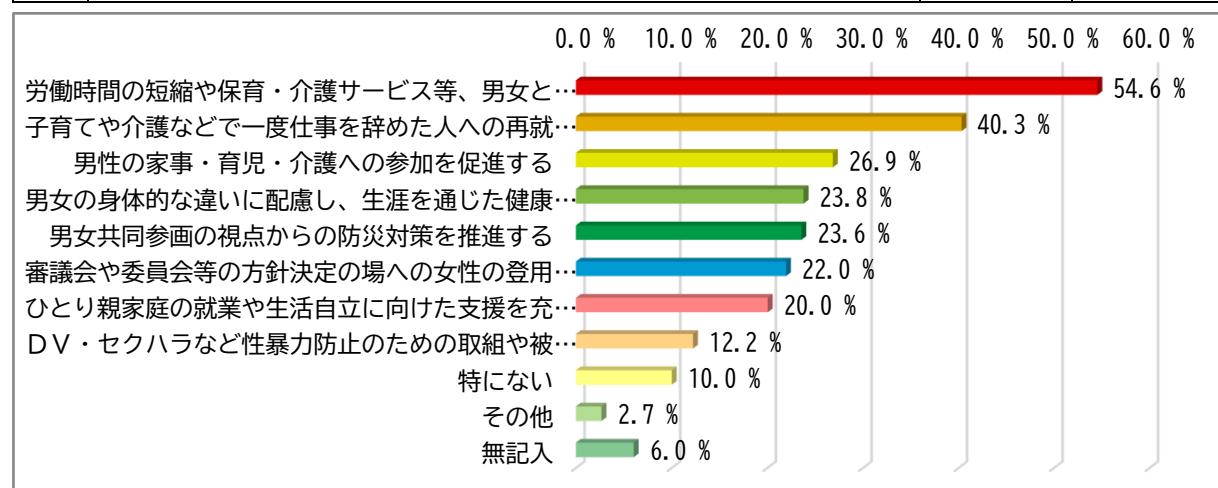
「1時間～2時間未満」が最も多く、20.4%を占めており、「1時間～4時間以上」の割合は59.6%で全体の半数を超えていている。

「1時間～4時間以上」の割合のうち、性別別でみると、女性が72.7%で男性（27.3%）の約2.7倍となっており、家事負担の多くを女性が担っていることがわかるため、性別による役割分担意識を解消するため、引き続きセミナー等を実施していく。

また、年齢別にみると、年代が上がるにつれて家事にかける時間が長くなる傾向が見られ、60～79歳で50.2%となっており、退職や子育ての終了、介護への関与など、ライフステージの変化が家事時間の増加に影響していると考えられる。

問10 男女共同参画社会を実現するために、今後、市はどのように特に力を入れていくべきだと思いますか。3つ選んでください。

No.	項目	回答数	構成比
1	労働時間の短縮や保育・介護サービス等、男女ともに働きやすい環境を整える	713名	54.6%
2	子育てや介護などで一度仕事を辞めた人への再就職を支援する	527名	40.3%
3	男性の家事・育児・介護への参加を促進する	351名	26.9%
4	男女の身体的な違いに配慮し、生涯を通じた健康支援を行う	311名	23.8%
5	男女共同参画の視点からの防災対策を推進する	308名	23.6%
6	審議会や委員会等の方針決定の場への女性の登用を促進する	287名	22.0%
7	ひとり親家庭の就業や生活自立に向けた支援を充実する	262名	20.0%
8	DV・セクハラなど性暴力防止のための取組や被害者支援を行う	160名	12.2%
9	特になし	131名	10.0%
10	その他	35名	2.7%
	無記入	79名	6.0%



【その他】

- 支援金、補助金などの金銭面の支援
- 収入格差
- 賃金、税金
- 保育、介護のサポート強化
- ある程度の収入が見込める就職場所を増やして欲しい
- 妊娠～育児の大変さを男性にもっと体験させるべき
- 男性の理解を深める
- 高齢者への支援
- 女性の就業条件（特にパート）の改善
- 定年後の再就職支援、障害者への理解支援
- 役所上級職への女性の登用
- 出産率を上げるため取り組み
- 独身であっても働きやすい、住みやすい場所づくり、取り組み

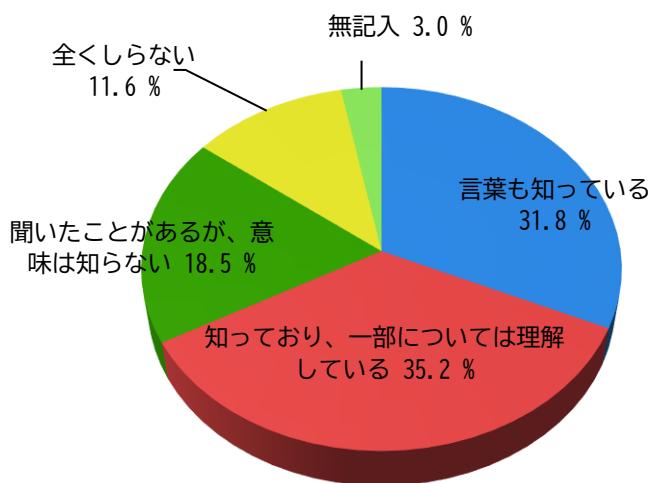
【集計結果の分析】

「労働時間の短縮や保育・介護サービス等、男女ともに働きやすい環境を整える」が54.6%と最も高く、男女ともに家事や育児などをしながらでも十分に働くことができる環境が必要とされていることが伺える。

のことから、職場環境の改善等に関する研修を実施するほか、イクボスとしてワーク・ライフ・バランスの推進や働きやすい職場環境づくりに取り組む「石巻市イクボス宣言企業」を募集するなど、男女が社会の対等な構成員として、共に参画できる社会の実現に取り組んでいく必要がある。

問11 「性的マイノリティ」「LGBT」という言葉を知っていますか。1つ選んでください。

No.	項目	回答数	構成比
1	言葉も知っている	415名	31.8%
2	知っており、一部については理解している	460名	35.2%
3	聞いたことがあるが、意味は知らない	242名	18.5%
4	全く知らない	151名	11.6%
	無記入	39名	3.0%



【集計結果の分析】

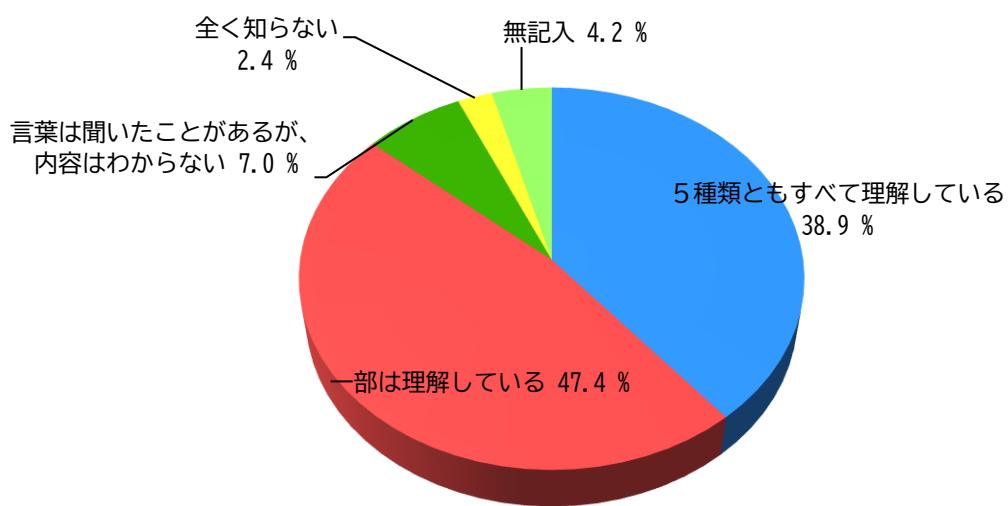
言葉自体の認知度については 85.5%となっているが、「言葉も意味も知っている」は 31.8%にとどまっている。

このことから、言葉だけでなく、内容についても理解を深めてもらうために、性的マイノリティ研修や中高生向けに性教育講話等を実施するなど、更なる理解促進を図る必要がある。

問12 DV（配偶者等からの暴力）の内容について正しく理解していますか。1つ選んでください。

«DVの種類・・身体的暴力、精神的暴力、性的暴力、社会的暴力、経済的暴力»

No.	項目	回答数	構成比
1	5種類ともすべて理解している	509名	38.9%
2	一部は理解している	619名	47.4%
3	言葉は聞いたことがあるが、内容はわからない	92名	7.0%
4	全く知らない	32名	2.4%
	無記入	55名	4.2%



「5種類ともすべて理解している」が 38.9%、「一部は理解している」が 47.4%となっている。

言葉 자체の認知度は 93.3%と高くなっているが、すべてのDVについて正しく理解してもらうために、今後もホームページや SNS を活用した情報提供のほか、DV相談カードの作成、配布など、啓発活動に努める必要がある。

問13 セクシャル・ハラスメント又はDV被害の相談窓口を知っていますか。各項目につき1つ選んでください。それ以外の相談窓口を知っている方は、その他にご記入ください。

ア 石巻警察署

No.	項目	回答数	構成比
1	名称も支援内容も知っている	339名	25.9%
2	名称は聞いたことがある	562名	43.0%
3	全く知らない	284名	21.7%
	無記入	122名	9.3%

イ 石巻市総合相談センター

No.	項目	回答数	構成比
1	名称も支援内容も知っている	125名	9.6%
2	名称は聞いたことがある	445名	34.0%
3	全く知らない	569名	43.5%
	無記入	168名	12.9%

ウ 宮城県東部保健福祉事務所

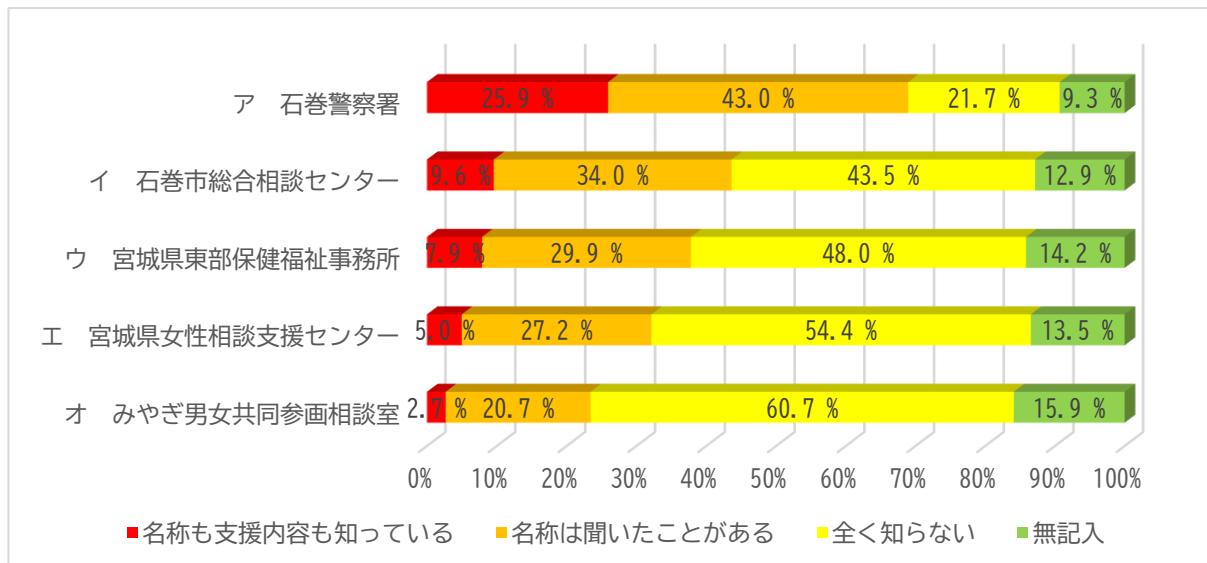
No.	項目	回答数	構成比
1	名称も支援内容も知っている	103名	7.9%
2	名称は聞いたことがある	391名	29.9%
3	全く知らない	628名	48.0%
	無記入	185名	14.2%

エ 宮城県女性相談支援センター

No.	項目	回答数	構成比
1	名称も支援内容も知っている	65名	5.0%
2	名称は聞いたことがある	355名	27.2%
3	全く知らない	711名	54.4%
	無記入	176名	13.5%

オ みやぎ男女共同参画相談室

No.	項目	回答数	構成比
1	名称も支援内容も知っている	35名	2.7%
2	名称は聞いたことがある	271名	20.7%
3	全く知らない	793名	60.7%
	無記入	208名	15.9%



【その他】

- NPO 法ハーティ仙台
- 権擁護委員
- 権擁護協議会
- 石巻ささえあいセンター

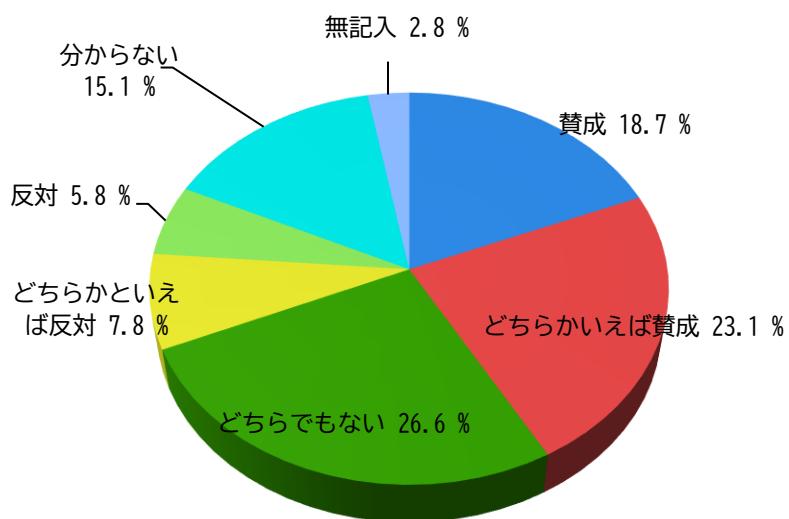
【集計結果の分析】

「名称も支援内容も知っている」が最も多いところでも、25.9%となっており、相談窓口の認知度は低いことがうかがえる。

のことから、関係機関等との情報共有、連携強化を図りながら、広報誌、ホームページ、パンフレット等による相談窓口の周知に努める必要がある。

問14 市ではパートナーシップ制度の導入を検討していますが、導入することについてどう考えますか。1つ選んでください。

No.	項目	回答数	構成比
1	賛成	245名	18.7%
2	どちらかといえば賛成	302名	23.1%
3	どちらでもない	348名	26.6%
4	どちらかといえば反対	102名	7.8%
5	反対	76名	5.8%
6	分からぬ	197名	15.1%
	無記入	37名	2.8%



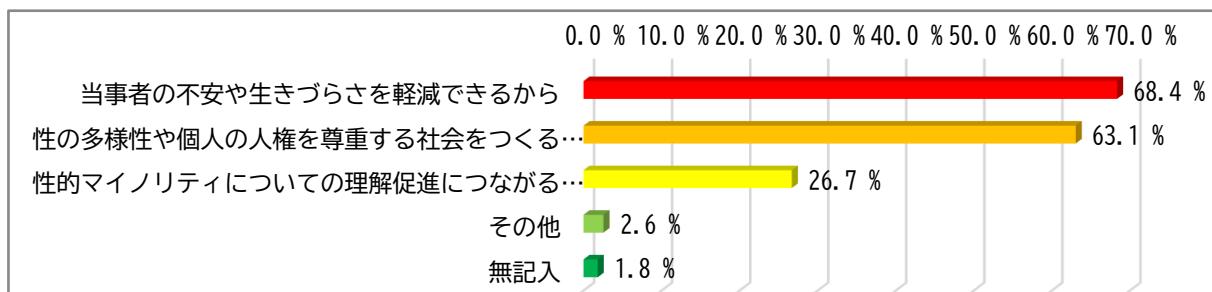
【集計結果の分析】

「賛成」「どちらかと言えば賛成」が41.8%、「どちらでもない」「分からぬ」は41.7%を占めていることから、今後は多様な生き方を尊重し、研修や講座等を実施し、パートナーシップ制度についての目的や意義等に関する理解促進を図っていく必要がある。

問15 問14で「1. 賛成」「2. どちらかといえば賛成」と回答した方にお聞きします。

回答した理由について当てはまるものをすべて選んでください。

No.	項目	回答数	構成比
1	当事者の不安や生きづらさを軽減できるから	374名	68.4%
2	性の多様性や個人の人権を尊重する社会をつくるために必要な取組だと思うから	345名	63.1%
3	性的マイノリティについての理解促進につながると思うから	146名	26.7%
4	その他	14名	2.6%
	無記入	10名	1.8%



【その他】

- 幸せを掴んでほしい。人生1回しかないので
- 個の自由
- そのようなカップルが移住してくれてもいいと思うから。
- 1にも似ているが、異性同士だから婚姻するのが普通という概念はすでに時代遅れである
- 石巻市で長く暮らす選択肢が増えると思うので
- 結婚というワードにとらわれず、パートナーとしても家族としても法的に守られるようにすれば良いと思います。

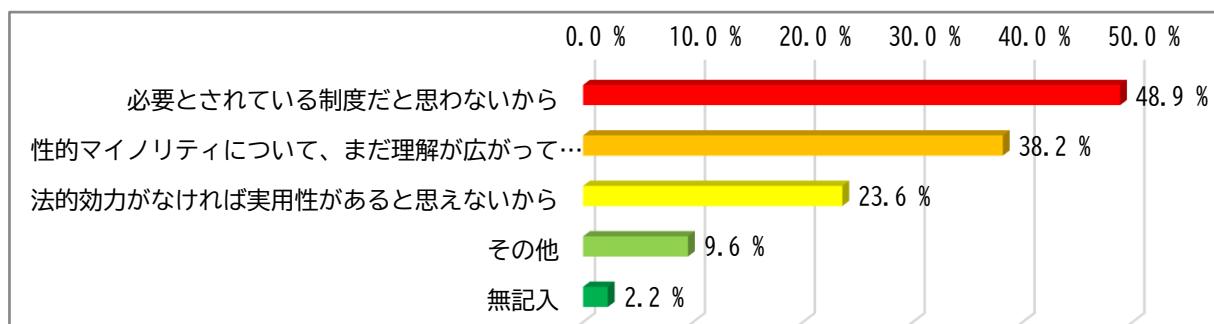
【集計結果の分析】

「賛成」「どちらかといえば賛成」の理由は、「当事者の不安や生きづらさを軽減できると思うから」が最も高く68.4%となっている。性の多様性に関する社会的理解や共感が高まっていることがうかがえる。

問16 問14で「4. どちらかといえば反対」「5. 反対」と回答した方にお聞きします。

回答した理由について当てはまるものをすべて選んでください。

No.	項目	回答数	構成比
1	必要とされている制度だと思わないから	87名	48.9%
2	性的マイノリティについて、まだ理解が広がっておらず時期尚早だと思うから	68名	38.2%
3	法的効力がなければ実用性があると思えないから	42名	23.6%
4	その他	17名	9.6%
	無記入	4名	2.2%



【その他】

- 戸籍の変更をして婚姻すれば良いと思う。
- 子どもがかわいそう
- 外国の不法滞在の手段に悪用されると思うから。
- 少子化考える
- 婚姻制度が意味ないようなものに感じてしまう。そもそも男女で成り立つもので子を成す事が出来ない
- 本物かなりすましかの判断?が難しいのでは
- 婚姻に準ずる関係を約束する必要性に疑問を持っているから

【集計結果の分析】

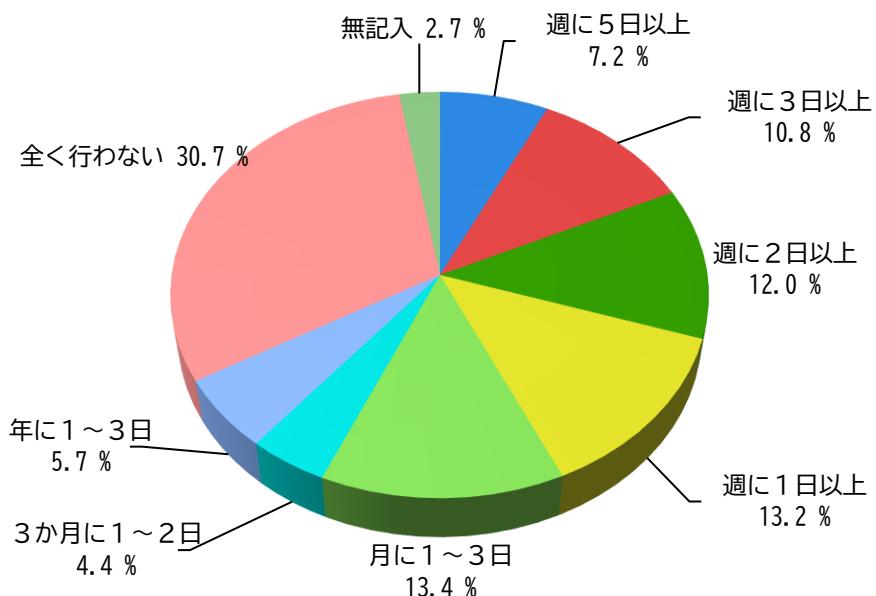
「どちらかといえば反対」、「反対」の理由は、「必要とされている制度だと思わないから」が最も高く48.9%となっている。

制度自体の意義や目的への納得感が十分に得られていないことがうかがえる。

4 スポーツについて

問17 直近1年間の運動頻度はどれくらいですか。1つ選んでください。

No.	項目	回答数	構成比
1	週に5日以上	94名	7.2%
2	週に3日以上	141名	10.8%
3	週に2日以上	157名	12.0%
4	週に1日以上	172名	13.2%
5	月に1～3日	175名	13.4%
6	3か月に1～2日	57名	4.4%
7	年に1～3日	75名	5.7%
8	全く行わない	401名	30.7%
	無記入	35名	2.7%



【集計結果の分析】

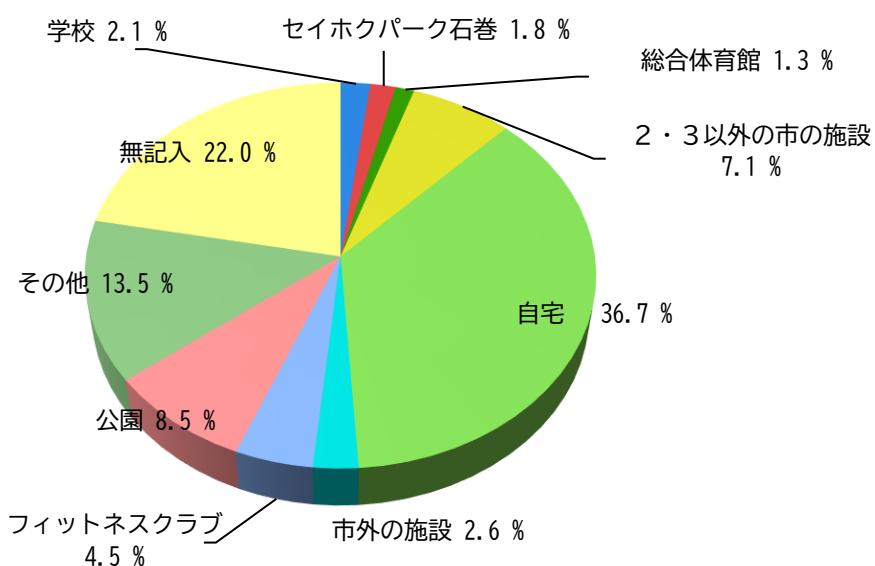
週に1回以上、運動を行っていると回答した方は 43.2%、全く行わないと回答した方は 30.7% となった。全く行わないと回答した年齢層は、各年代で約 25～35% の範囲内であり、大きな偏りは見られなかった。

昨年度の結果と比較すると、全く行わないと回答した方は 6.9% 減少し、運動を行う方の割合は増加傾向にある。

今後は、運動を全く行わない方、初心者の方でも気軽に楽しめるスポーツイベントや運動教室を継続的に実施することで運動に接する機会を増やし、運動頻度の向上を図る。

問18 運動やスポーツ活動はどこで行っていますか。主な場所を1つ選んでください。

No.	項目	回答数	構成比
1	学校	27名	2.1%
2	セイホクパーク石巻	23名	1.8%
3	石巻市総合体育館	17名	1.3%
4	2・3以外の市の施設	93名	7.1%
5	自宅	480名	36.7%
6	市外の施設	34名	2.6%
7	フィットネスクラブ	59名	4.5%
8	公園	111名	8.5%
9	その他	176名	13.5%
	無記入	287名	22.0%



【その他】

- 自宅周辺
- ゴルフ場
- 通勤・職場
- 山・海・川

【集計結果の分析】

「自宅」が36.7%で最も多い結果となった。次に「公園」の8.5%であり、「その他」で自宅周辺や通勤と回答した方も多いことから、手軽に実施できる運動や場所が人気であり、また、通勤や職場等、毎日の生活の中に運動機会を組み込んでいる方が多いと考えられる。

一方で学校や市の施設の利用は12.3%と少ないことから、今後は公共施設の利用率を向上させるためにホームページやSNS等を活用し、スポーツ施設の情報を発信していく。

問19 運動・スポーツに係るボランティア活動を行ったことがありますか。1つ選んでください。

No.	項目	回答数	構成比
1	ある	100名	7.7%
2	ない	1,171名	89.6%
	無記入	36名	2.8%



【集計結果の分析】

「ない」が89.6%と非常に多い結果となった。また、「ある」と回答した方の年齢層に偏りはなく、全年代で参加率が低いことが分かった。

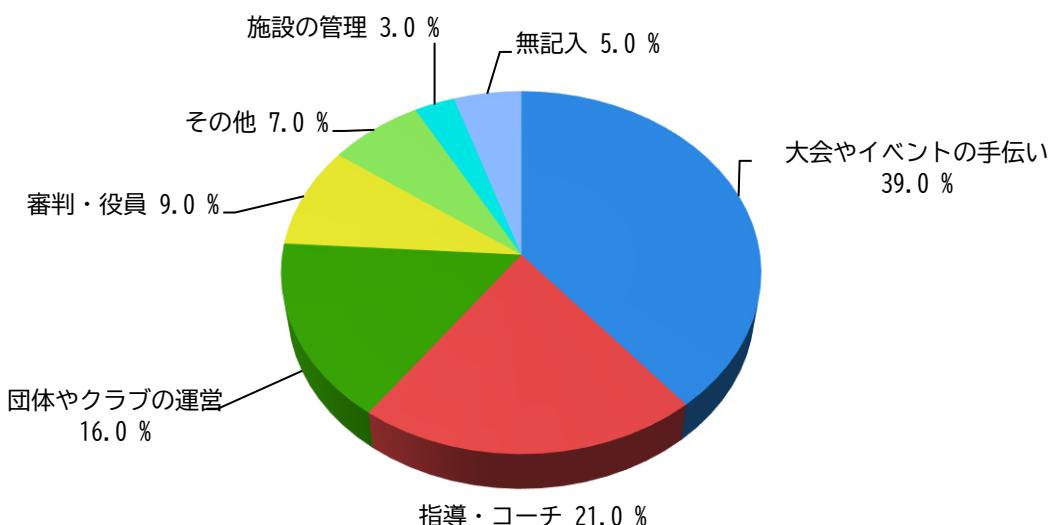
逆に、偏りがないということはボランティア活動が難しい・または敬遠する特定の年代ではなく、等しく伸びしろがあるということでもある。

スポーツボランティア活動はスポーツを「支える」重要な活動のため、活動ができる機会を提供し、スポーツの力を地域社会づくりに繋げられるよう取り組む。

問20 問19で「ある」と回答した方にお聞きします。何のボランティア活動でしたか。

1つ選んでください。

No.	項目	回答数	構成比
1	大会やイベントの手伝い	39名	39.0%
2	指導・コーチ	21名	21.0%
3	団体やクラブの運営	16名	16.0%
4	審判・役員	9名	9.0%
5	その他	7名	7.0%
6	施設の管理	3名	3.0%
	無記入	5名	5.0%



【その他】

- ゴミ拾い・除草
- イベントでのステージ

【集計結果の分析】

「大会やイベントの手伝い」が39.0%で最も多く、次に「指導・コーチ」が21.0%、「団体やクラブの運営」が16.0%となった。

スポーツボランティア活動の場の情報発信を行いながら、それに併せて魅力や地域貢献等の社会的意義の側面についても周知し、未経験の方のボランティア活動への参加促進に務めていく。

5 石巻市の環境について

問21 環境についてどう思いますか。各項目につき1つ選んでください。

ア 多くの自然や生物に恵まれている

No.	項目	回答数	構成比
1	思う	378名	28.9%
2	どちらかというとそう思う	514名	39.3%
3	どちらともいえない	252名	19.3%
4	どちらかといえばそう思わない	63名	4.8%
5	思わない	36名	2.8%
	無記入	64名	4.9%

イ 公園や道路、宅地などの緑が豊か

No.	項目	回答数	構成比
1	思う	208名	15.9%
2	どちらかというとそう思う	481名	36.8%
3	どちらともいえない	339名	25.9%
4	どちらかといえばそう思わない	133名	10.2%
5	思わない	70名	5.4%
	無記入	76名	5.8%

ウ 田や畠の農地の緑が豊か

No.	項目	回答数	構成比
1	思う	429名	32.8%
2	どちらかというとそう思う	521名	39.9%
3	どちらともいえない	208名	15.9%
4	どちらかといえばそう思わない	54名	4.1%
5	思わない	26名	2.0%
	無記入	69名	5.3%

エ 自然や文化、歴史などと調和した街並みが美しい

No.	項目	回答数	構成比
1	思う	75名	5.7%
2	どちらかというとそう思う	273名	20.9%
3	どちらともいえない	516名	39.5%
4	どちらかといえばそう思わない	231名	17.7%
5	思わない	133名	10.2%
	無記入	79名	6.0%

才 空気がきれい

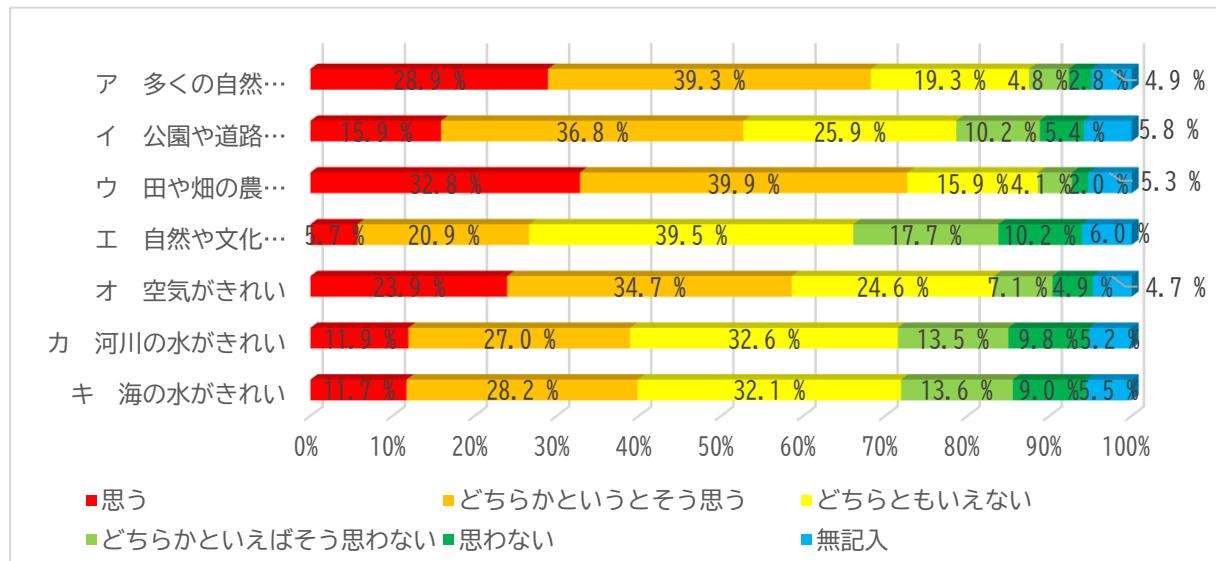
No.	項目	回答数	構成比
1	思う	313名	23.9%
2	どちらかというとそう思う	453名	34.7%
3	どちらともいえない	322名	24.6%
4	どちらかといえばそう思わない	93名	7.1%
5	思わない	64名	4.9%
	無記入	62名	4.7%

力 河川の水がきれい

No.	項目	回答数	構成比
1	思う	156名	11.9%
2	どちらかというとそう思う	353名	27.0%
3	どちらともいえない	426名	32.6%
4	どちらかといえばそう思わない	176名	13.5%
5	思わない	128名	9.8%
	無記入	68名	5.2%

キ 海の水がきれい

No.	項目	回答数	構成比
1	思う	153名	11.7%
2	どちらかというとそう思う	368名	28.2%
3	どちらともいえない	419名	32.1%
4	どちらかといえばそう思わない	178名	13.6%
5	思わない	117名	9.0%
	無記入	72名	5.5%



【集計結果の分析】

石巻の環境は、多くの自然や生物に恵まれていると思う方が多い結果となった。

本市は海、山、川など豊かな自然に囲まれ、多種多様な生物が生息・生育していることから、これらを地域の財産として後世に引き継いでいくため、人の暮らしと自然が調和する地域づくりに取り組んでいく必要がある。

また、公園や道路、宅地などの緑が豊かだと思う方が半数以上となった。宅地開発や道路整備を進める際には緑化に配慮し、自然環境を保全しながら実施することが求められ、身近に緑とふれあえる環境を創出していく必要がある。

次に、田や畠の農地の緑が豊かだと思っている市民に関しても、多くの市民が豊かであるという結果となった。自然と調和した良好な景観はふるさとの誇り、そして地域の魅力であることから、その保全や創出に取り組んでいく必要がある。

さらに、空気がきれいだと思っている方が半数以上となった。市民一人一人が健康な生活を送るために、大気を安全な状態に保つことが必要不可欠であるため、日常生活を取り巻く環境について、市民が安心して暮らすことのできる良好な状態の維持に向け「環境負荷の低減」に取り組んでいく必要がある。

一方で、自然や文化、歴史等と調和した街並みが美しい、河川の水や海の水がきれいだと思わない市民が多い結果となった。魅力あるまちづくりに向けて、地域の景観に目を向け、自然や文化、歴史などを学び、地域特性を活かした景観の形成を推進していく必要がある。

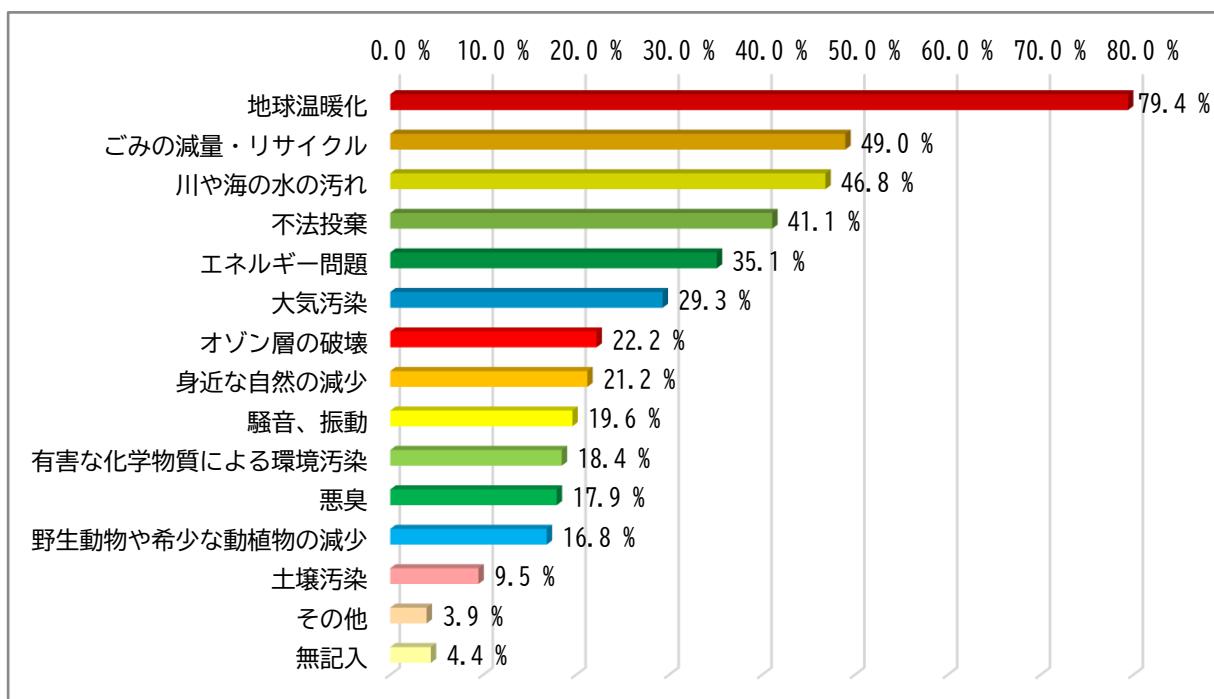
また、河川や海の汚濁は、結果として水質汚染にもつながるため、水環境の監視を行いながら、安全で清らかな水の確保に向けて取り組む。

問22 あなたが関心のある環境問題をすべて選んでください。

No.	項目	回答数	構成比
1	地球温暖化	1,038名	79.4%
2	ごみの減量、リサイクル	640名	49.0%
3	川や海の水の汚れ	612名	46.8%
4	不法投棄	537名	41.1%
5	エネルギー問題	459名	35.1%
6	大気汚染	383名	29.3%
7	オゾン層の破壊	290名	22.2%
8	身近な自然の減少	277名	21.2%
9	騒音、振動	256名	19.6%
10	有害な化学物質による環境汚染	241名	18.4%
11	悪臭	234名	17.9%
12	野生動物や希少な動植物の減少	220名	16.8%
13	土壤汚染	124名	9.5%
14	その他	51名	3.9%
	無記入	57名	4.4%

【その他】

- ・野生動物（熊・鹿等）が市街地へ出没することによる被害
- ・森林伐採などの自然破壊による、太陽光発電や風力発電施設の設置
- ・空地・空き家の放置問題



【集計結果の分析】

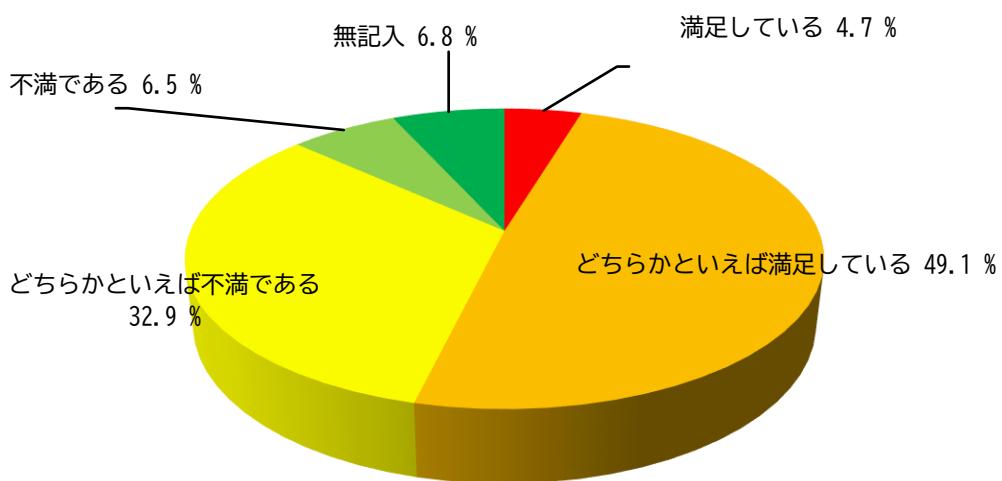
「地球温暖化」が 79.4%となり、最も関心のある結果となった。また、「ごみの減量、リサイクル」、「川や海の水の汚れ」、「ごみの不法投棄」、「エネルギー問題」は、昨年度調査と同様に関心が高くなっている。

以上のことから、環境問題を身近な問題として捉え、一人一人が環境問題について正しい知識を持ち、正しく環境に配慮した行動を実践する「環境市民」として生活していくことが強く求められている。今後、環境関連イベントや環境学習の場において、「環境市民」の育成に努めていく。

6 地域福祉について

問23 市が行う高齢者福祉の施策に満足していますか。1つ選んでください。

No.	項目	回答数	構成比
1	満足している	61名	4.7%
2	どちらかといえば満足している	642名	49.1%
3	どちらかといえば不満である	430名	32.9%
4	不満である	85名	6.5%
	無記入	89名	6.8%



【集計結果の分析】

「満足している」「どちらかといえば満足している」が53.8%を占め、令和5年度調査結果(44.9%)に比べて8.9%増加している。

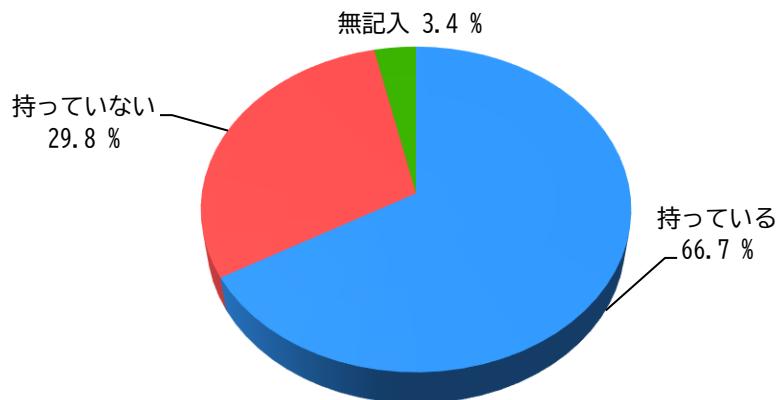
地区別の満足度に大きな違いはないが、年齢別の満足度について、ほとんどは半数を超えており、50~59歳は47.2%、80歳以上は49.5%と低い結果となった。

高齢者福祉サービスを利用しているまたは利用する可能性が高い方やその家族の年齢の方の満足度が低くなっていると考えられる。

情報が必要な方に行き届くように周知を徹底し、住み慣れた地域でこれからも安心して生活できるよう、きめ細やかな支援を広げていく。

問24 普段の生活で生きがいを持っていますか。1つ選んでください。

No.	項目	回答数	構成比
1	持っている	872名	66.7%
2	持っていない	390名	29.8%
	無記入	45名	3.4%



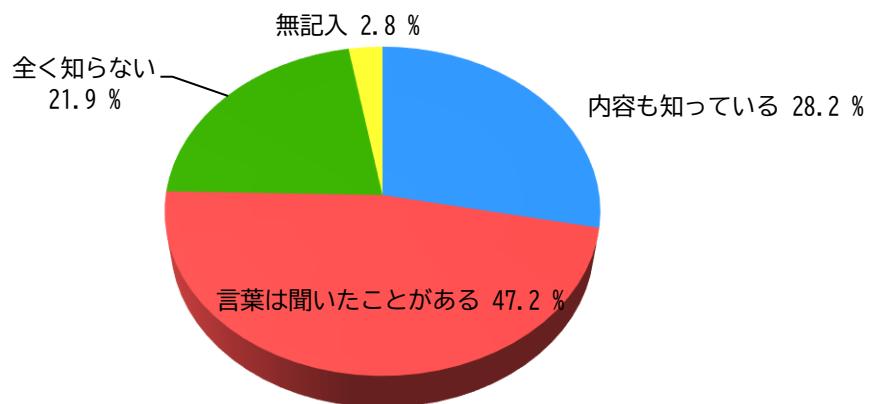
【集計結果の分析】

60歳以上の調査結果は、「持っている」が64.9%であり、昨年度の73.8%に比べて8.9%減少した。

多くの方が生きがいを持ち高めていくため、高齢福祉の事業を継続する。特に「高齢者の生きがいと創造の事業」は新しい講座を開設する等、事業を推進してきたが、結果を踏まえ、各種事業や地域包括支援センター等を通してニーズを把握し、より時代に合った活動を充実させ、参加しやすい健康・介護予防事業の整備とその周知に取り組む。

問25 「成年後見制度」を知っていますか。1つ選んでください。

No.	項目	回答数	構成比
1	内容も知っている	368名	28.2%
2	言葉は聞いたことがある	617名	47.2%
3	全く知らない	286名	21.9%
	無記入	36名	2.8%



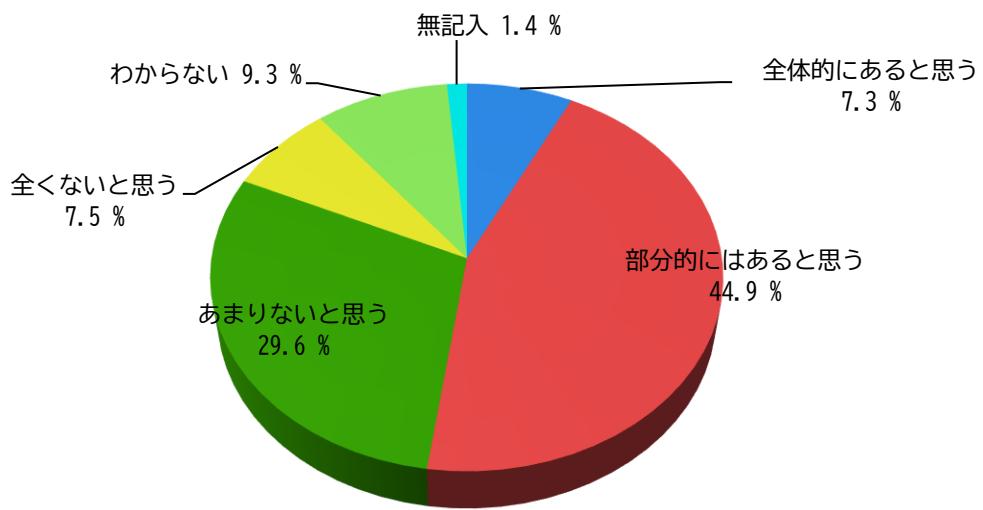
【集計結果の分析】

「言葉は聞いたことがある」が47.2%で、昨年度の42.7%と比較して4.5%増加。一方で「内容も知っている」は28.2%であり、昨年度とほぼ同じ結果となった。調査の結果から制度の更なる周知啓発が必要であることが判明したため、今後は、制度に関するパンフレットの配布や出前講座の実施等を通して制度の内容に踏み込んだ広報活動を実施していく。

問26 住んでいる地域は困っているときの助け合いや支え合いが行われていると思いますか。

1つ選んでください。

No.	項目	回答数	構成比
1	全体的にあると思う	96名	7.3%
2	部分的にはあると思う	587名	44.9%
3	あまりないと思う	387名	29.6%
4	全くないと思う	98名	7.5%
5	わからない	121名	9.3%
	無記入	18名	1.4%



【集計結果の分析】

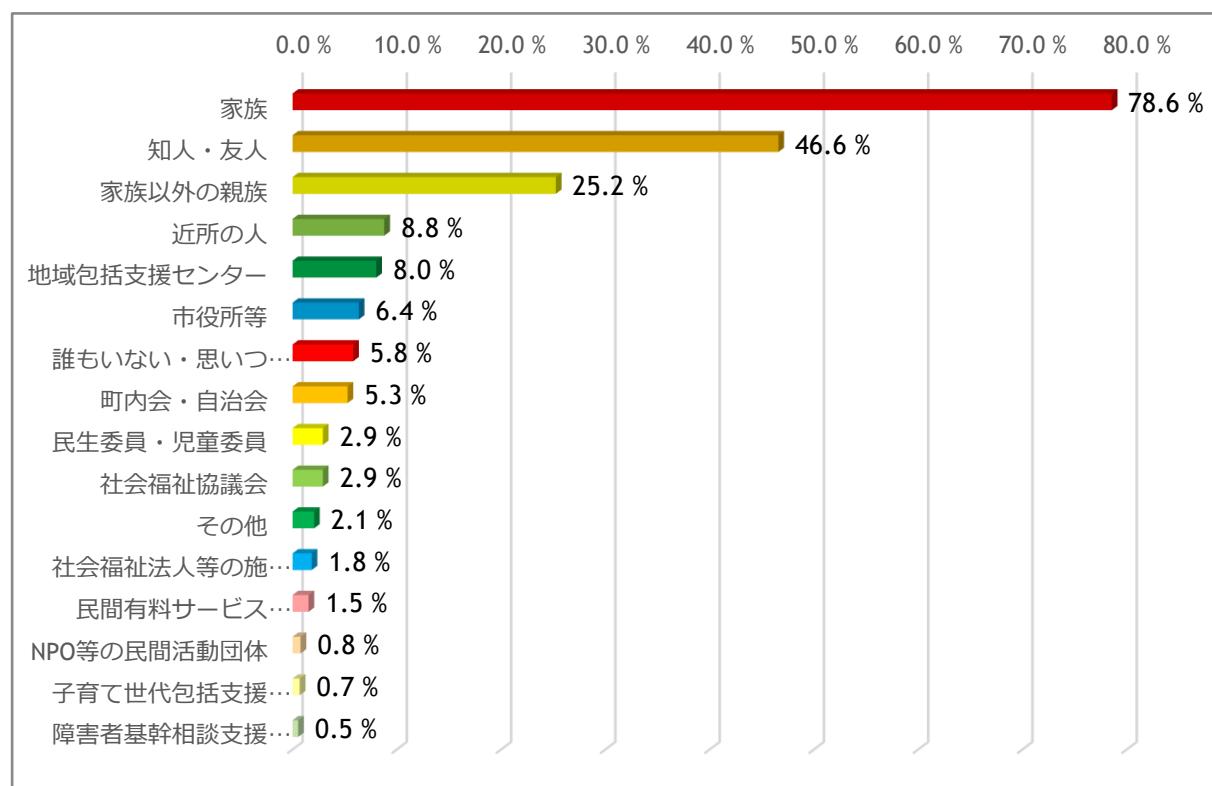
「全体的にあると思う」「部分的にあると思う」が52.2%を占め、昨年度の結果と比較して、0.6ポイント減少している。

地区別では、雄勝・牡鹿地区が助け合いの意識が高く、「全体的にあると思う」「部分的にあると思う」が雄勝地区で77%、牡鹿地区で73.4%を占め、地域のつながりの強さが伺える。

このことから、人口減少などの社会構造の変化は今後も進行するが、隣近所の小さな地域から支え合う意識を持つことで、さらに顔の見える関係づくりが構築できると考えるため、推進していく必要がある。

問27 あなたは日常生活の困りごとを誰に相談しますか。当てはまるものをすべて選んでください。

No.	項目	回答数	構成比
1	家族	1,027名	78.6%
2	知人・友人	609名	46.6%
3	家族以外の親族	330名	25.2%
4	近所の人	115名	8.8%
5	地域包括支援センター	105名	8.0%
6	市役所等	83名	6.4%
7	誰もいない・思いつかない	76名	5.8%
8	町内会・自治会	69名	5.3%
9	民生委員・児童委員	38名	2.9%
10	社会福祉協議会	38名	2.9%
11	その他	27名	2.1%
12	社会福祉法人等の施設関係者	24名	1.8%
13	民間有料サービス(ヘルパーなど)	20名	1.5%
14	NPO等の民間活動団体	10名	0.8%
15	子育て世代包括支援センター	9名	0.7%
16	障害者基幹相談支援センター	7名	0.5%
	無記入	22名	1.7%



【その他】

●職場関係者 ●chat GPT ●YouTube、ネット検索

【集計結果の分析】

「家族」が 78.6% で一番多く、次に「友人・知人」となっており、自分の身近な人に相談しやすいことが伺える。

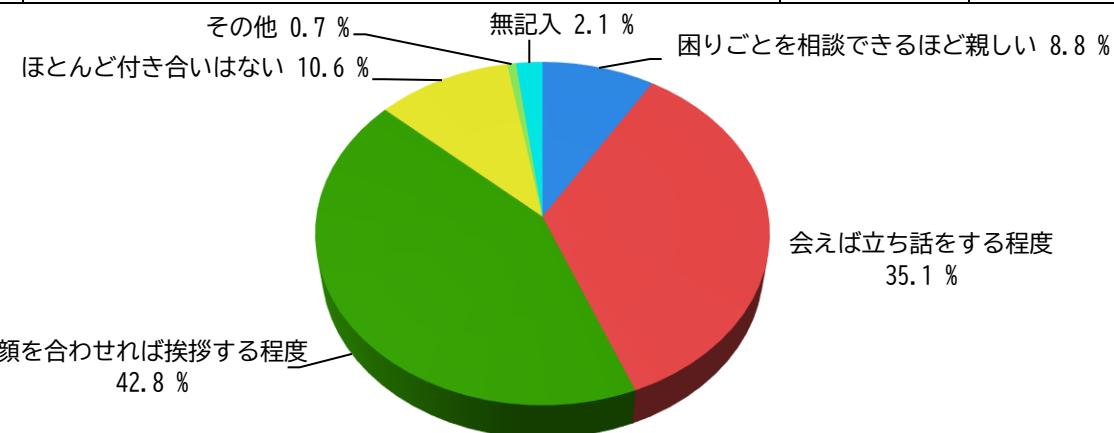
公的機関では「市役所等」は 6.4%、「地域包括支援センター」は 8.0% の方が相談先として回答している。

その他回答の中には「インターネット」や「ChatGPT」などの回答があり、時代を反映し気軽に相談できて便利に感じる方も増えてきているものと思われる。

一方で、複雑化した困りごとを抱える世帯が増加している印象があり「誰もいない、思いつかない」が 5.8% であることから、相談しやすい窓口体制の整備や各相談窓口の周知等に努めていく。

問28 近所とどの程度お付き合いをしていますか。1つ選んでください。

No.	項目	回答数	構成比
1	困りごとを相談できるほど親しい	115名	8.8%
2	会えば立ち話をする程度	459名	35.1%
3	顔を合わせれば挨拶する程度	559名	42.8%
4	ほとんど付き合いはない	138名	10.6%
5	その他	9名	0.7%
	無記入	27名	2.1%



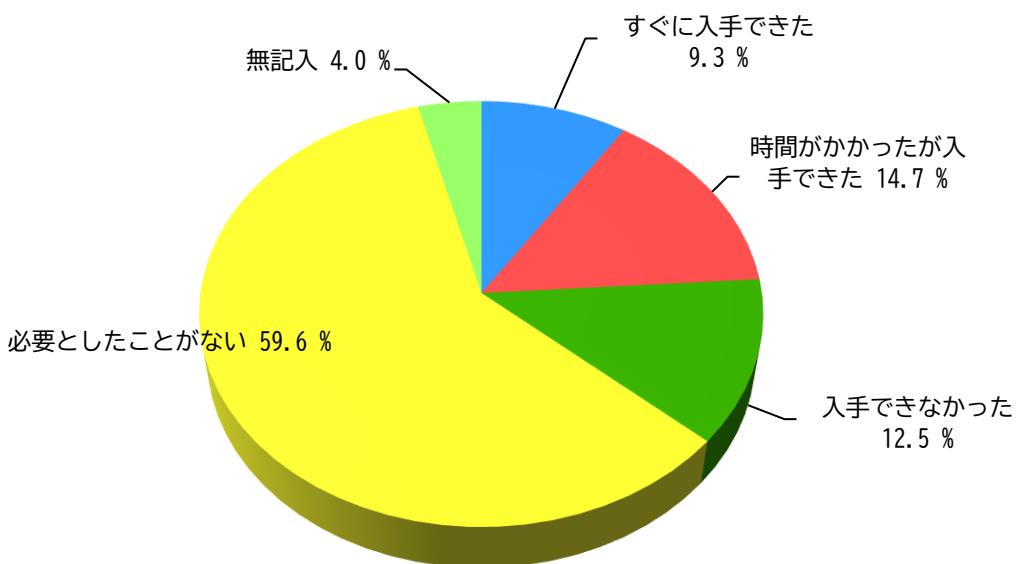
「困りごとを相談できるほど親しい」「会えば立ち話をする程度」は 43.9% を占め、昨年度の結果と比較すると 2.1% 減少し、「顔を合わせれば挨拶をする程度」「ほとんど付き合いはない」は 53.4% を占め、昨年度の結果と比較すると 1.2% 上昇している。

世代毎では、70 歳代以上は「困りごとを相談できるほど親しい」が多く、80 歳以上では 59.3% が「困りごとを相談できるほど親しい」「会えば立ち話をする程度」と回答している。しかし 18~29 歳は「ほとんど付き合いはない」が 24.0% で、高い値が出ていることから、地域での関係性の希薄化は若年層から進んできていることが伺える。

以上のことから、孤独、孤立等の社会問題が進行することのないよう、地域でのつながりや社会参加を促進するための支援が必要と考えられる。

問29 地域の助け合いやボランティア活動に関する情報や知識を必要としたときに、入手することができましたか。1つ選んでください。

No.	項目	回答数	構成比
1	すぐに入手できた	121名	9.3%
2	時間がかかったが入手できた	192名	14.7%
3	入手できなかった	163名	12.5%
4	必要としなかった	779名	59.6%
	無記入	52名	4.0%



【集計結果の分析】

「すぐに入手できた」「時間がかかったが入手できた」が24.0%を占め、昨年度と比較して0.9%上昇している。

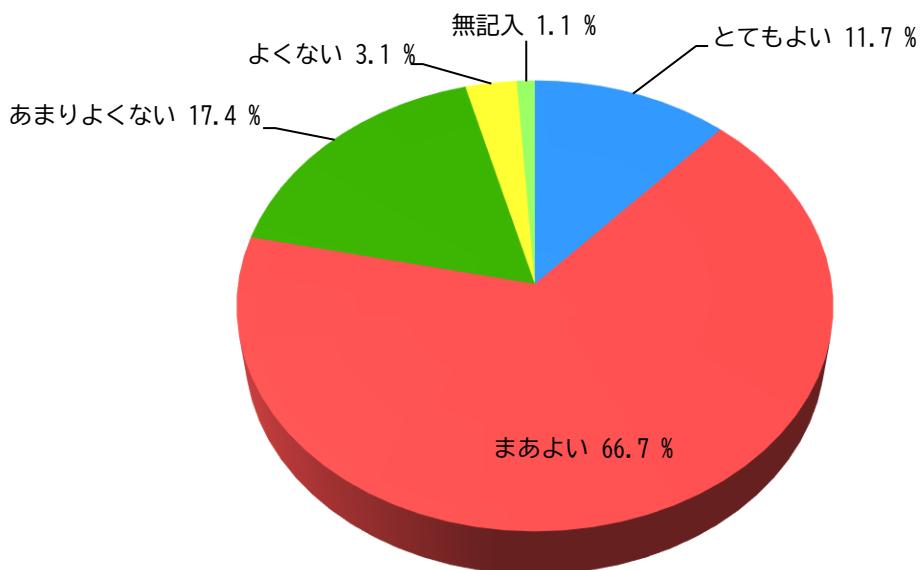
地域別では雄勝地区で「すぐに手に入った」が15.4%で、北上地区・牡鹿地区で13.3%となった。

一方で「必要としなかった」は59.6%で、昨年度と比較して1.4%上昇している。

このことから、入手しやすい情報の提供方法と併せ、地域の助け合いやボランティア活動への関心を高める意識の醸成を図る必要がある。

問30 健康状態について、1つ選んでください。

No.	項目	回答数	構成比
1	とてもよい	153名	11.7%
2	まあよい	872名	66.7%
3	あまりよくない	228名	17.4%
4	よくない	40名	3.1%
	無記入	14名	1.1%



【集計結果の分析】

「とてもよい」「まあよい」が78.4%を占め、昨年度と比較して2.4%上昇し、「あまりよくない」「よくない」は20.5%を占めている。

地域別では、牡鹿地区では93.4%が「とてもよい」「まあよい」と回答し、最も高い値となっている。

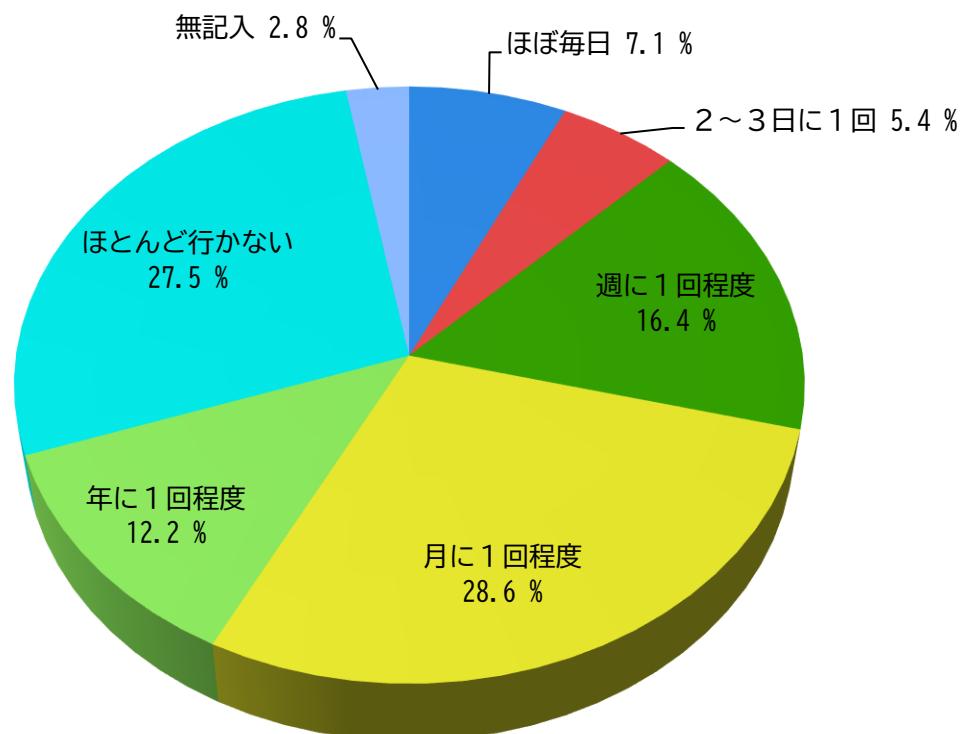
年齢別では、80歳以上で「とてもよい」「まあよい」が65.9%を占めており、元気な高齢者の増加も伺える。

のことから、健康寿命の延伸、元気な高齢者の増加のために、地域のつながりをしつかり維持しつつ、地域全体で健康づくりを進めていくことが必要と考えられる。

7 中心市街地の活性化について

問31 中心市街地へ出掛ける（利用する）頻度はどれくらいですか。1つ選んでください。

No.	項目	回答数	構成比
1	ほぼ毎日	93名	7.1%
2	2～3日に1回	71名	5.4%
3	週に1回程度	214名	16.4%
4	月に1回程度	374名	28.6%
5	年に1回程度	159名	12.2%
6	ほとんど行かない	359名	27.5%
	無記入	37名	2.8%



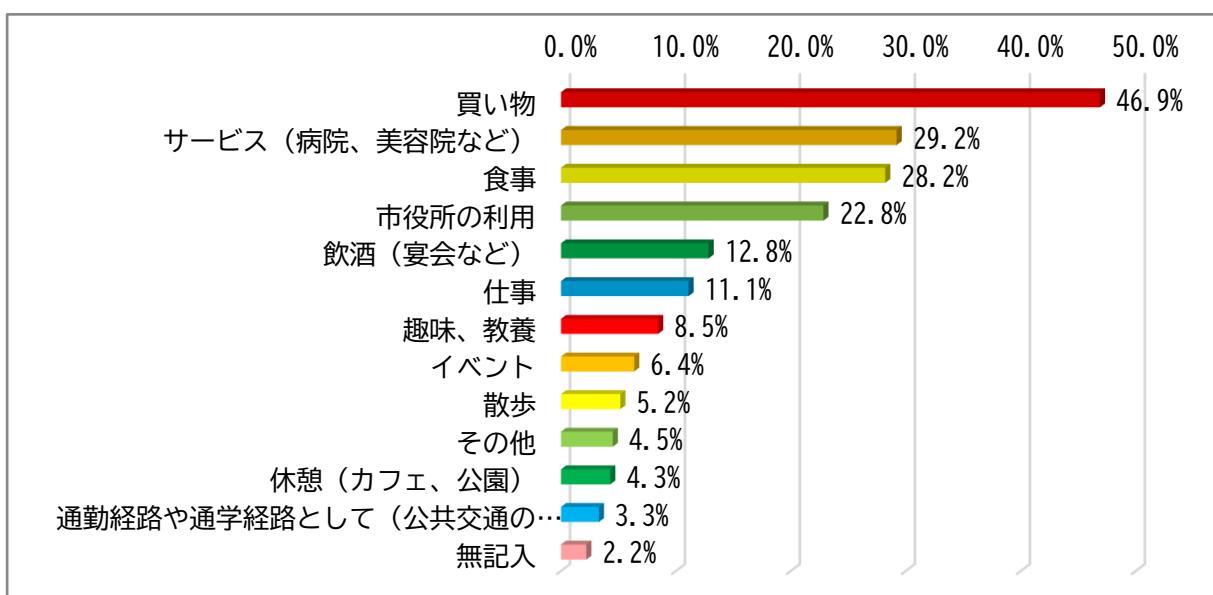
【集計結果の分析】

「月に1回程度」以上利用すると回答した割合は57.5%となり、令和5年度の結果と比較し5.8%増加した一方で、回答者の居住地別に比較すると、大型店が立地している蛇田地区や中心市街地まで距離が遠い旧町地区においては「年に1回程度」「ほとんど行かない」が約半数を占めている。

市民が中心市街地へ来訪するきっかけとなるような店舗等が増加するよう、店舗の出店支援等を進めていく。

問32 どのような目的で中心市街地に出掛けますか（利用しますか）。3つまで選んでください。

No.	項目	回答数	構成比
1	買い物	427名	46.9%
2	サービス（病院、美容院など）	266名	29.2%
3	食事	257名	28.2%
4	市役所の利用	208名	22.8%
5	飲酒（宴会など）	117名	12.8%
6	仕事	101名	11.1%
7	趣味、教養	77名	8.5%
8	イベント	58名	6.4%
9	散歩	47名	5.2%
10	その他	41名	4.5%
11	休憩（カフェ、公園）	39名	4.3%
12	通勤経路や通学経路として（公共交通の利用）	30名	3.3%
	無記入	20名	2.2%



【その他】

●銀行 ●子どもセンターらいつ ●あいプラザ

【集計結果の分析】

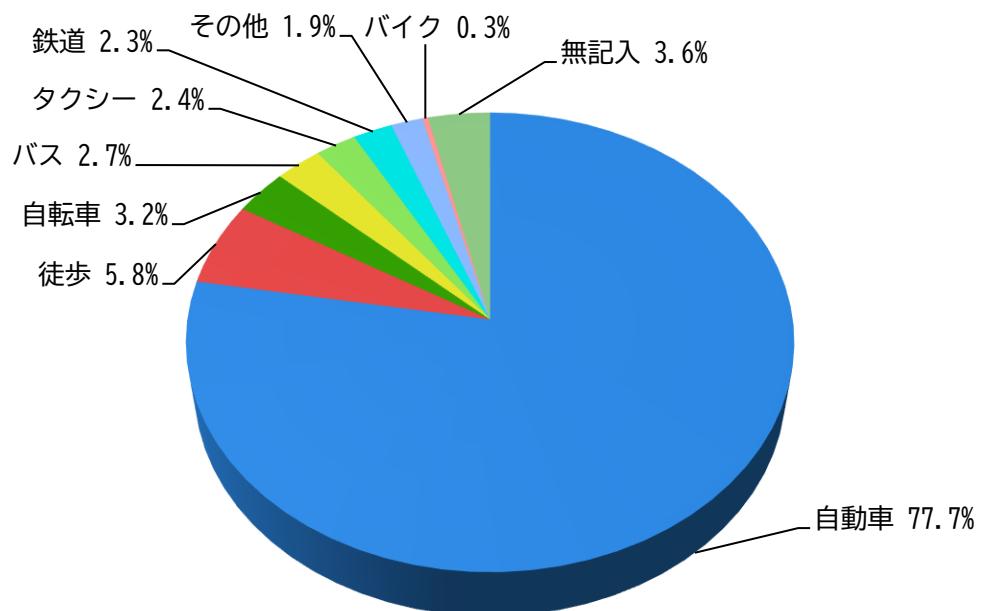
「買い物」が46.9%で最も多く、次いで「サービス」「食事」「市役所の利用」の順となり、前回調査と同様となっている。

また、昨年度は回答がなかった「休憩（カフェ、公園）」が4.3%で、新規開店した喫茶店や、かわまち交流広場付近の日常利用が認知されてきたと考えられる。

以上のことから、商店や飲食店等、目的をもって来訪される街づくりを進めていく。

問33 主にどのような交通手段で訪れていますか。1つ選んでください。

No.	項目	回答数	構成比
1	自動車	708名	77.7%
2	徒歩	53名	5.8%
3	自転車	29名	3.2%
4	タクシー	25名	2.7%
5	鉄道	22名	2.4%
6	バス	21名	2.3%
7	その他	17名	1.9%
8	バイク	3名	0.3%
	無記入	33名	3.6%



【その他】

●送迎

【集計結果の分析】

「自動車」が77.7%と突出して多く、市民の日常的な移動手段が自動車であることがわかる。公共交通機関や徒歩での来訪もあるが、かなり少ない割合となっている。以上のことから、自動車で来訪する方が歩いて回遊したくなるような仕組みづくりを検討していく。

問34 中心市街地の状況について、5年前（2020年）と比較してどのように感じていますか。各項目につき1つ選んでください。

ア 住む場所としての魅力

No.	項目	回答数	構成比
1	かなり良くなつた	36名	2.8%
2	良くなつた	211名	16.1%
3	変わらない	680名	52.0%
4	悪くなつた	168名	12.9%
5	かなり悪くなつた	68名	5.2%
	無記入	144名	11.0%

イ 観光地（遊びに行く場所）としての魅力

No.	項目	回答数	構成比
1	かなり良くなつた	23名	1.8%
2	良くなつた	238名	18.2%
3	変わらない	673名	51.5%
4	悪くなつた	157名	12.0%
5	かなり悪くなつた	65名	5.0%
	無記入	151名	11.6%

ウ. 飲食に行く場所としての魅力

No.	項目	回答数	構成比
1	かなり良くなつた	25名	1.9%
2	良くなつた	222名	17.0%
3	変わらない	654名	50.0%
4	悪くなつた	190名	14.5%
5	かなり悪くなつた	64名	4.9%
	無記入	152名	11.6%

エ. 買い物に行く場所としての魅力

No.	項目	回答数	構成比
1	かなり良くなつた	20名	1.5%
2	良くなつた	158名	12.1%
3	変わらない	608名	46.5%
4	悪くなつた	246名	18.8%
5	かなり悪くなつた	129名	9.9%
	無記入	146名	11.2%

オ. イベントや市民活動の開催場所としての魅力

No.	項目	回答数	構成比
1	かなり良くなつた	19名	1.5 %
2	良くなつた	252名	19.3 %
3	変わらない	682名	52.2 %
4	悪くなつた	147名	11.2 %
5	かなり悪くなつた	52名	4.0 %
	無記入	155名	11.9 %

力. 街並みの景観や歩行空間の魅力

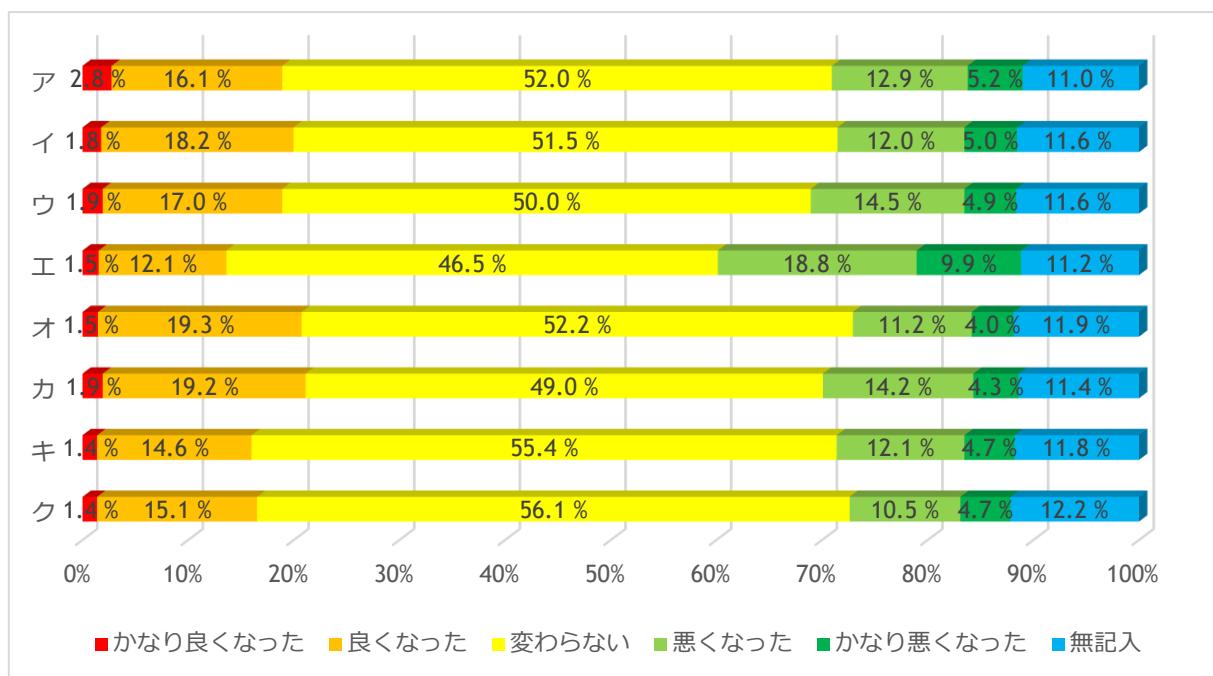
No.	項目	回答数	構成比
1	かなり良くなつた	25名	1.9 %
2	良くなつた	251名	19.2 %
3	変わらない	640名	49.0 %
4	悪くなつた	186名	14.2 %
5	かなり悪くなつた	56名	4.3 %
	無記入	149名	11.4 %

キ. 公共施設の利便性・快適性

No.	項目	回答数	構成比
1	かなり良くなつた	18名	1.4 %
2	良くなつた	191名	14.6 %
3	変わらない	724名	55.4 %
4	悪くなつた	158名	12.1 %
5	かなり悪くなつた	62名	4.7 %
	無記入	154名	11.8 %

ク. チャレンジする場所（イベント開催や出店）としての魅力

No.	項目	回答数	構成比
1	かなり良くなつた	18名	1.4 %
2	良くなつた	198名	15.1 %
3	変わらない	733名	56.1 %
4	悪くなつた	137名	10.5 %
5	かなり悪くなつた	62名	4.7 %
	無記入	159名	12.2 %



【集計結果の分析】

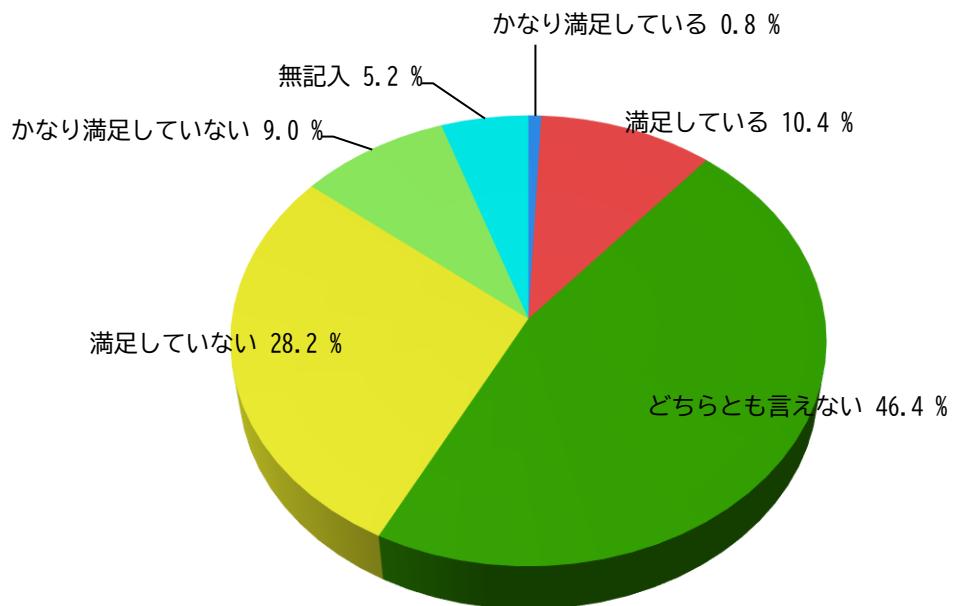
「観光地（遊びに行く場所）としての魅力」「イベントや市民活動の開催場所としての魅力」「街並みの景観や歩行空間の魅力」の3項目については「かなり良くなった」「良くなった」が20%を超え、観光地、イベントなど非日常的な利用の側面では魅力が広まっており、景観を活かした歩行空間としても認知されていることが伺える。

一方で「買い物に行く場所としての魅力」は28.7%が「悪くなった」「かなり悪くなつた」と回答している。

以上のことから、中心市街地には買い物等を目的に訪れる人が最も多くなっている現状を踏まえ、景観を活かした街づくりを行い、イベント等の支援を行うことでさらに非日常使いの利用を促進するほか、空き店舗の活用支援など、日常的な利用を促進する。

問35 現在の中心市街地の状況に、満足していますか。1つ選んでください。

No.	項目	回答数	構成比
1	かなり満足している	10名	0.8%
2	満足している	136名	10.4%
3	どちらとも言えない	607名	46.4%
4	満足していない	369名	28.2%
5	かなり満足していない	117名	9.0%
	無記入	68名	5.2%



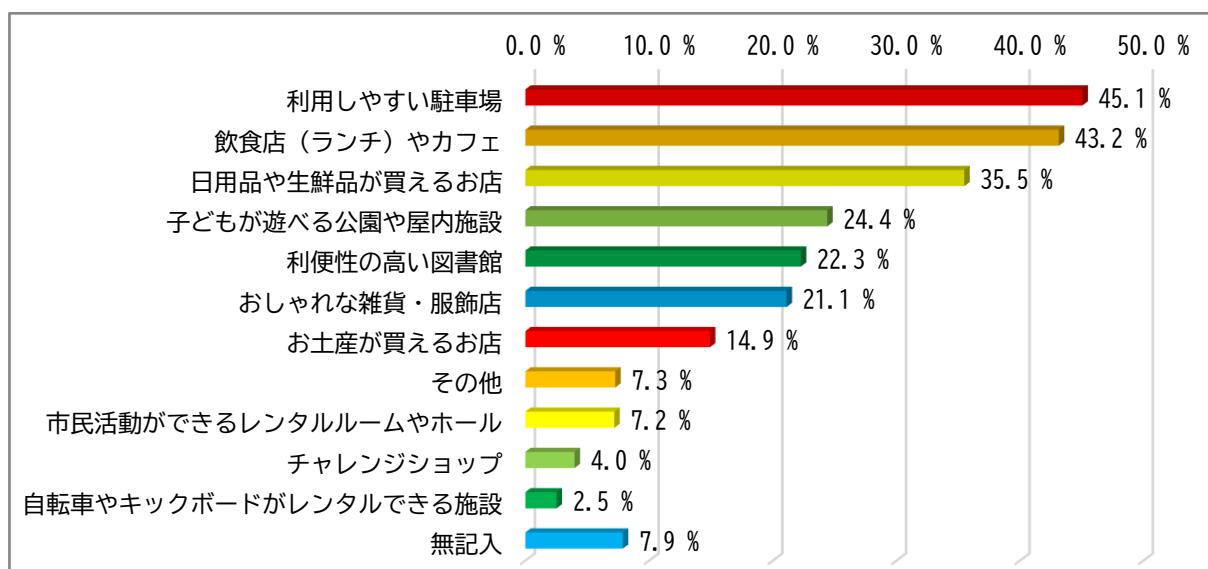
【集計結果の分析】

「かなり満足している」「満足している」が11.2%を占め、前年度の結果と比較し、0.8%増加している。一方で「満足していない」「かなり満足していない」が37.2%を占め、前年度の結果と比較し、4.9%増加し、満足度は低下している。

以上のことから、中心市街地の満足度を高めるため、街づくり会社や民間事業者、関係機関と連携し、市民の意見を反映しながら、まちづくりを進めていく。

問36 中心市街地の街づくりに望むものは何ですか。3つまで選んでください。

No.	項目	回答数	構成比
1	利用しやすい駐車場	589名	45.1%
2	飲食店（ランチ）やカフェ	564名	43.2%
3	日用品や生鮮品が買えるお店	464名	35.5%
4	子どもが遊べる公園や屋内施設	319名	24.4%
5	利便性の高い図書館	291名	22.3%
6	おしゃれな雑貨・服飾店	276名	21.1%
7	お土産が買えるお店	195名	14.9%
8	その他	95名	7.3%
9	市民活動ができるレンタルルームやホール	94名	7.2%
10	チャレンジショップ	52名	4.0%
11	自転車やキックボードがレンタルできる施設	33名	2.5%
	無記入	103名	7.9%



【その他】

- 無料駐車場
- 一方通行や細い道路の解消
- 屋内施設

【集計結果の分析】

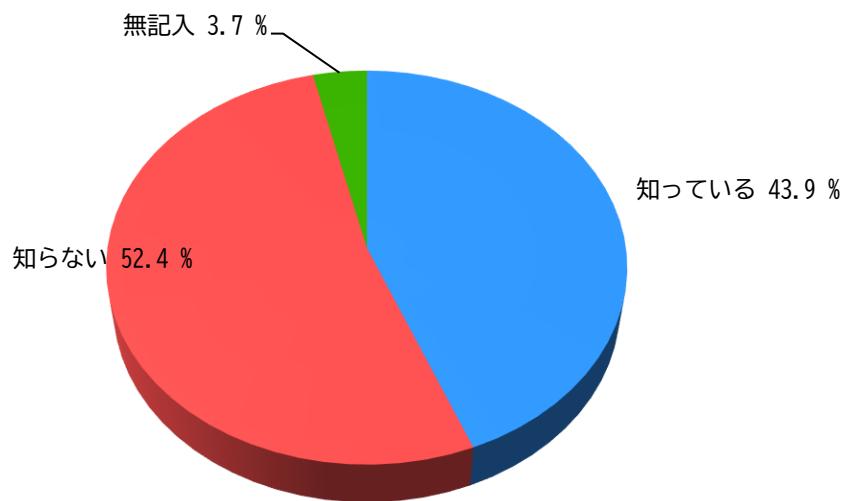
「利用しやすい駐車場」が45.1%で最も多く、次いで「飲食店（ランチ）やカフェ」「日用品や生鮮品が買えるお店」「子どもが遊べる公園や屋内施設」の順となり、昨年度と同様の結果となった。駐車場については民間駐車場が相当数立地していることから、そちらを利用するよう、周知を図っていく。

また、空き店舗などの活用支援を進めることで、飲食店や日用品が買える店の出店を支援していく。

8 石巻市博物館について

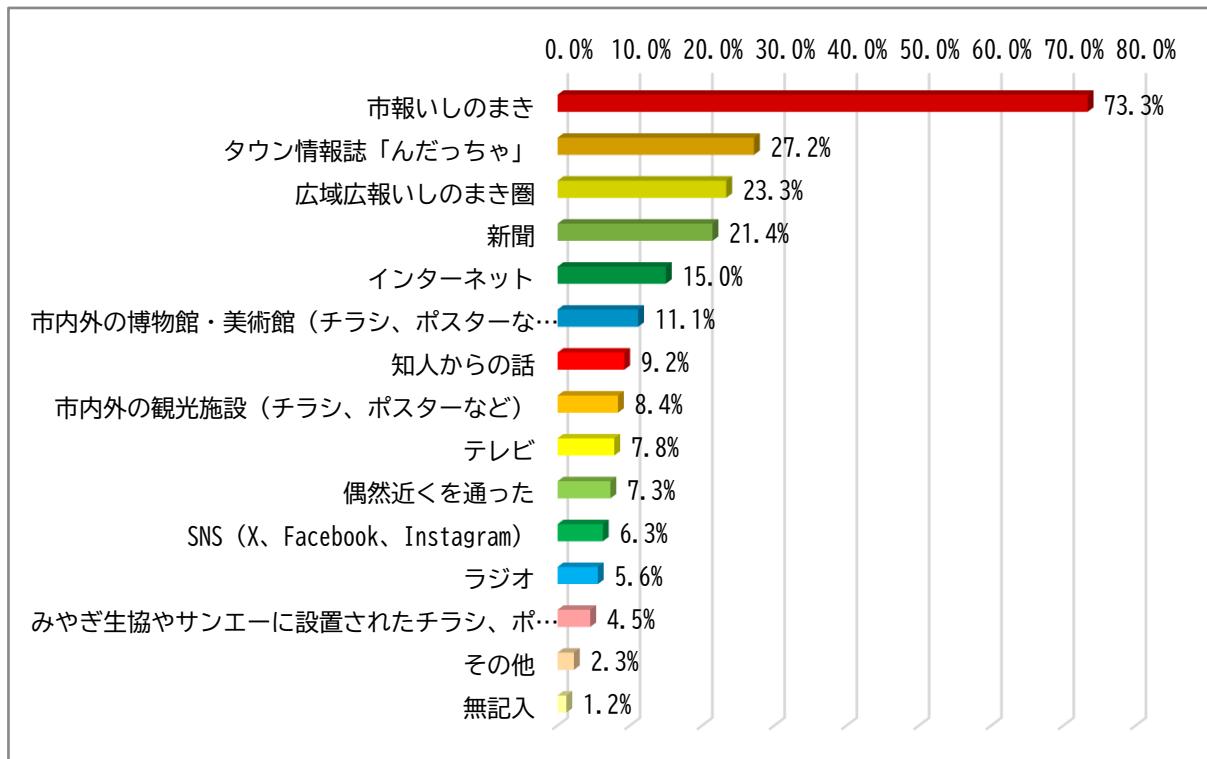
問37 石巻市に博物館があることを知っていますか。1つ選んでください。

No.	項目	回答数	構成比
1	知っている	574名	43.9%
2	知らない	685名	52.4%
	無記入	48名	3.7%



問38 問37で「1. 知っている」と回答した方にお聞きします。石巻市博物館も情報を何で入手しましたか。すべて選んでください。

No.	項目	回答数	構成比
1	市報いしのまき	421名	73.3%
2	タウン情報誌「んだっしゃ」	156名	27.2%
3	広域広報いしのまき圏	134名	23.3%
4	新聞	123名	21.4%
5	インターネット	86名	15.0%
6	市内外の博物館・美術館（チラシ、ポスターなど）	64名	11.1%
7	知人からの話	53名	9.2%
8	市内外の観光施設（チラシ、ポスターなど）	48名	8.4%
9	テレビ	45名	7.8%
10	偶然近くを通った	42名	7.3%
11	SNS（X、Facebook、Instagram）	36名	6.3%
12	ラジオ	32名	5.6%
13	みやぎ生協やサンエーに設置されたチラシ、ポスター	26名	4.5%
14	その他	13名	2.3%
	無記入	7名	1.2%



【その他】

- 仕事をしていて知った
- LINE
- 石巻文化センターの時代から知っていた
- フラワーアレンジメント講座
- 公民館
- 家族 など

【集計結果の分析】

問37 「知らない」が 52.4%で、半数以上に認知されていない現状である。

また、年齢別では 20 代以下の若年層にはほとんど認知されていない結果となった。

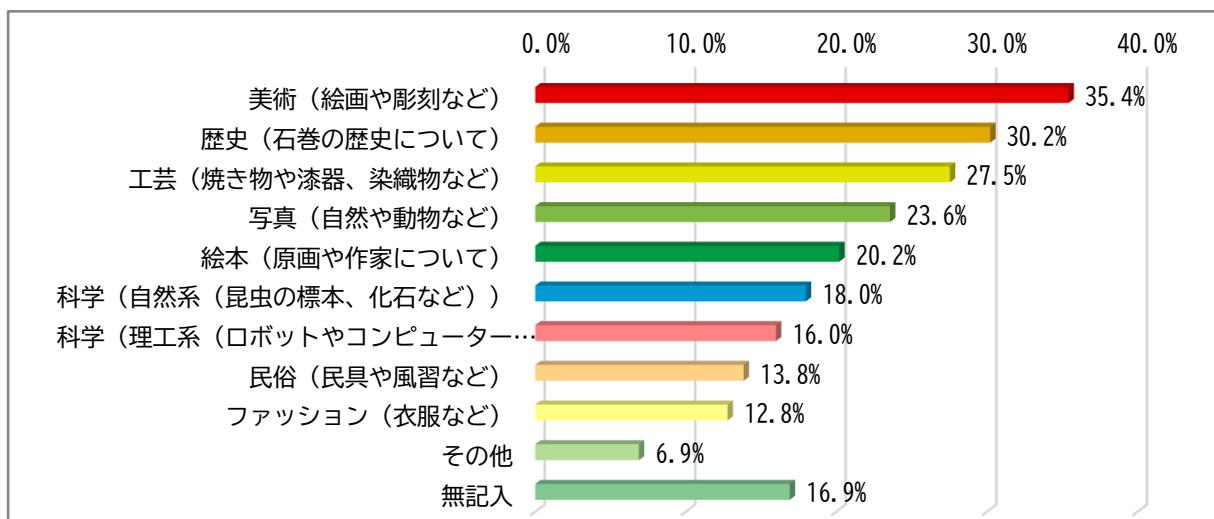
問38 「市報いしのまき」が 73.3%で最も多く、次いで「タウン情報誌「んだっしゃ」」「広域広報いしのまき圏」「新聞」の順で、紙媒体が上位を占めている結果となった。

以上のことから、引き続き「市報いしのまき」での情報発信に努めるとともに、認知度が低い若年層の興味・関心を惹く企画の検討や、SNS やホームページを活用した効果的な周知活動を行っていく。

また、石巻市複合文化施設マルホンまきあーとテラスが目的で来館したことをきっかけに認知した状況も見受けられることから、指定管理者と協力も行っていく。

問39 年に3回企画展（特別展）を開催しています。どのような企画展だと、石巻市博物館に行きたくなりますか。すべて選んでください。

No.	項目	回答数	構成比
1	美術（絵画や彫刻など）	463名	35.4%
2	歴史（石巻の歴史について）	395名	30.2%
3	工芸（焼き物や漆器、染織物など）	360名	27.5%
4	写真（自然や動物など）	308名	23.6%
5	絵本（原画や作家について）	264名	20.2%
6	科学（自然系（昆虫の標本、化石など））	235名	18.0%
7	科学（理工系（ロボットやコンピューターなど））	209名	16.0%
8	民俗（民具や風習など）	181名	13.8%
9	ファッション（衣服など）	167名	12.8%
10	その他	90名	6.9%
	無記入	221名	16.9%



【その他】

- アニメ ●子ども向け企画 ●簡単な工芸のワークショップ ●マンガ
- 生物、類の進化、世界遺産（自然） ●船の模型、ジオラマ等、昔の雑誌、本
- 災害や震災 ●盆栽、植物 ●市民サークルと連携した企画 ●仏像展 遺跡展

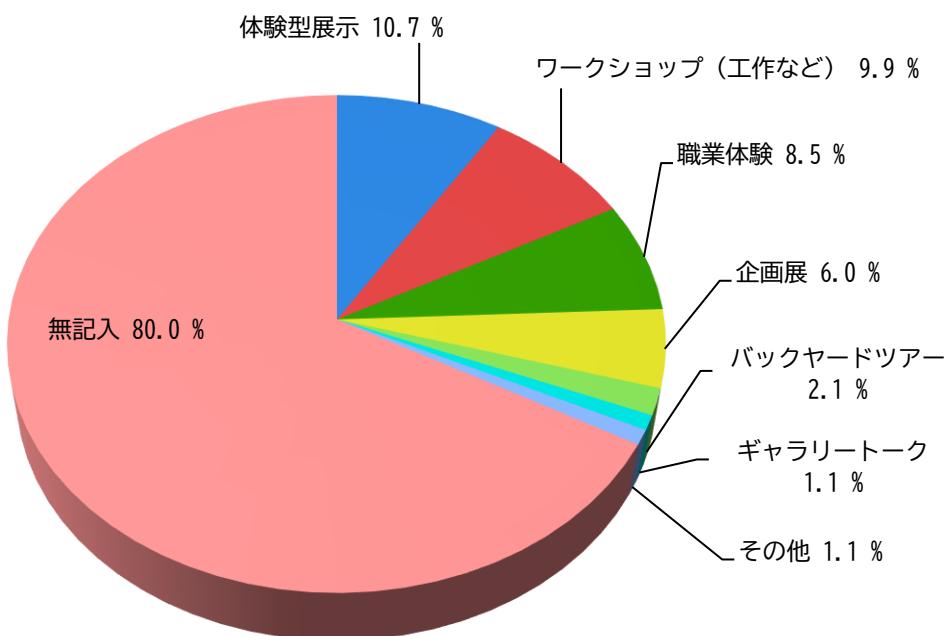
【集計結果の分析】

「美術（絵画や彫刻など）」が35.4%で最も多く、次いで「歴史（石巻の歴史について）」が30.2%となった。20%を超える提案が、工芸や写真、絵本といった芸術に関する内容が多い結果となった。その他では、アニメや漫画の記述が多くあったため、萬画館と調整し検討していく。

以上のことからニーズに即した事業展開に努めていく。

問40 同居しているお子さん（未就学児～高校生）がいる方にお聞きします。お子さんを石巻市博物館に連れて行きたくなるような、子ども向けの事業は何ですか。すべて選んでください。

No.	項目	回答数	構成比
1	体験型展示	140名	10.7%
2	ワークショップ（工作など）	129名	9.9%
3	職業体験	111名	8.5%
4	企画展	79名	6.0%
5	バックヤードツアー	27名	2.1%
6	ギャラリートーク（展示説明）	15名	1.1%
7	その他	15名	1.1%
	無記入	1046名	80.0%



【その他】

- 漫画やアニメの制作過程が見えるワークショップ
- ファッショショーンショー
- 外国人との英会話など

【集計結果の分析】

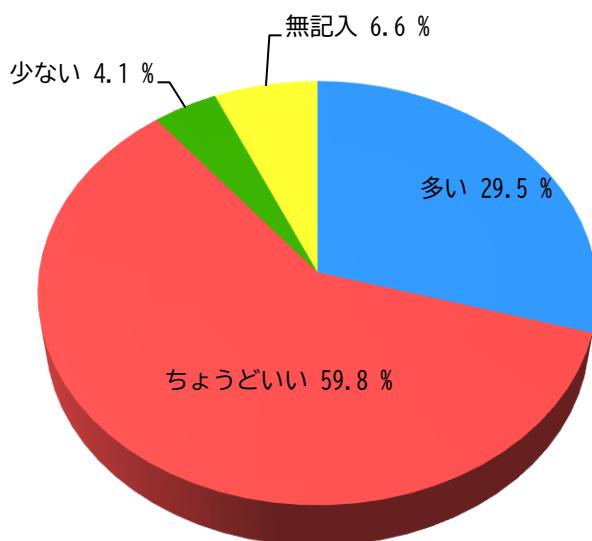
対象と思われる方が約20.0%の中で、「体験型展示」が10.7%、「ワークショップ（工作など）」が9.9%、「職業体験」が8.8%と体験型事業が多い結果となった。

ワークショップをはじめとする教育普及事業の重要性は認知していることから、事業実施のノウハウなど他館を参考に、展示の内容や教育普及事業に着手していく。

★ 本調査の印象について

問 調査票の質問数（40問）について、どう思いましたか。1つ選んでください。

No.	項目	回答数	構成比
1	多い	386名	29.5%
2	ちょうどいい	781名	59.8%
3	少ない	54名	4.1%
	無記入	86名	6.6%



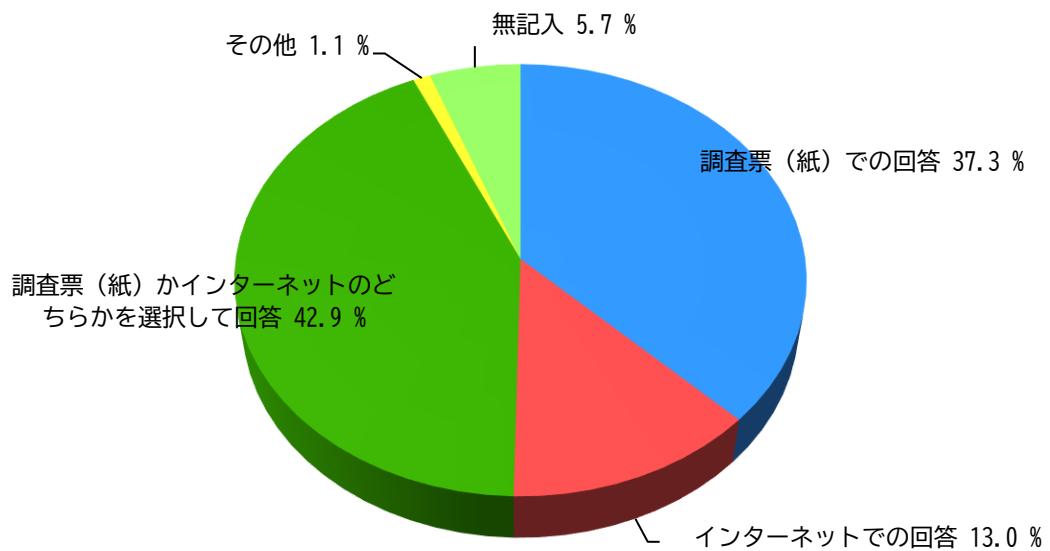
【集計結果の分析】

「ちょうどよい」が59.8%で5割を超える結果となったほか、前回から質問数を51問から40問に減らしたことにより「多い」が20.6%減少した。

調査項目は市の各種施策や計画の指標になっているものもあり、市民の意見を市政に反映させる重要な資料としているため、引き続き、調査項目の精査を行いつつも、回答者の負担を少しでも軽減するよう、設問数の見直しに努めていく。

問 調査に回答する際は、どの手法が望ましいですか。1つ選んでください。

No.	項目	回答数	構成比
1	調査票（紙）での回答	488名	37.3%
2	インターネットでの回答	170名	13.0%
3	調査票（紙）かインターネットのどちらかを選択して回答	561名	42.9%
4	その他	14名	1.1%
	無記入	74名	5.7%



【その他】

- 自由欄が欲しい
- どちらもいる

【集計結果の分析】

世代別では、69歳以下で「調査票（紙）かインターネット（スマートフォン・タブレットなど）のどちらかを選択して回答」が多い結果となった一方、70歳以上は「調査票（紙）での回答」が多い結果となった。

全世代が回答しやすいよう、調査票（紙）とインターネットの両方で回答できる方法を実施しているが、引き続き調査方法を検討していく。